

Notebook PC

ソフトウェア セットアップ&リファレンス

製品名:	Notebook PC サポートCD
マニュアルリビジョン:	1.00J650
発行日:	2000年11月

## 目次

Windows <sup>(R)</sup> クイックインストール ガイド .....	3
サポートCD(Windows ME & 2000) .....	4
Windows ME 起動画面 .....	4
Windows 2000 起動画面 .....	4
ドライバ(Windows ME & 2000) .....	5
ビデオドライバ .....	7
ビデオドライバのインストール(Windows ME & 2000) .....	7
ディスプレイのプロパティの設定 .....	7
コントロールパネル .....	8
Windows ME & 2000用コントロールパネルのインストール .....	8
オーディオドライバ .....	9
オーディオドライバのインストール(Windows 2000) .....	9
オーディオの設定 .....	10
SpeedStep .....	11
SpeedStepのインストール(Windows ME & 2000) .....	11
ASUS PC Probe .....	12
PC Probeのインストール(Windows ME & 2000) .....	12
タッチパッド .....	14
タッチパッドドライバのインストール(Windows ME) .....	14
タッチパッドドライバのインストール(Windows 2000) .....	15
高速赤外線ドライバ .....	16
Windows ME & 2000用Fast IR(赤外線)ドライバのインストール .....	16
ネットワークデバイスの設定 .....	17
LANドライバ .....	17
LANドライバのインストール(Windows ME & 2000) .....	17
アダプタの設定変更(Windows ME) .....	18
アダプタの設定変更(Windows 2000) .....	18
モデムドライバ .....	19
モデムドライバのインストール(Windows ME) .....	19
モデムドライバのインストール(Windows 2000) .....	20
PC-cillin 2000 .....	21
PC-cillin 2000 Anti-Virusのインストール(Windows ME) .....	21
PC-cillin 2000 Anti-Virusのインストール(Windows 2000) .....	25
ホットキーユーティリティ .....	27
ホットキーユーティリティのインストール(Windows ME) .....	27
スクリーンセーバーユーティリティ .....	28
スクリーンセーバーユーティリティのインストール(Windows ME & 2000) .....	28

## Windows ME & 2000 ソフトウェアリファレンス .. 29

## Windows<sup>(R)</sup> クイックインストールガイド

1. Notebook PCの電源をOFFにし、AiBoxを接続します。
2. Windows ME/2000 CD を CD-ROMドライブにセットします。
3. ATAPI CD-ROMドライブをHDDより先に起動するように設定します。(起動中に<F2>または<ESC>を押しBIOSセットアップに入ります。上下の矢印を用いて「ATAPI CD-ROM Drive」の優先順位を変更します。)
4. 「Windowsのセットアップ」画面で<ENTER>を押し、ライセンス画面で<F8>を押します。
5. Windows ME: もし既存のOSがある場合は、それを保存したままWindows MEを別のディレクトリにインストールできます。この場合、Notebook PCの起動中にOSを選択することができます。Windows 95/98にインストールしてあるアプリケーションをそのまま使用したい場合は「upgrade」を選択し、既存のOSに上書きインストールします。  
Windows 2000: もし既存のOSがある場合は、ファイルのコピー画面で<ESC>を押し、インストールするパーティションの選択を行います。ファイルシステムにNTFSを選ぶとWindows2000独自のファイル管理機能が利用できます。
6. Windowsのインストールが終了したら、Notebook PCにサポートCDをセットし、各種ドライバのインストールを行います。

## サポートCD (Windows ME & 2000)

Notebook PCには、OSインストール済み と OSなしのモデルがあります。Notebook PC付属のサポートCDには、Notebook PCをMicrosoft<sup>®</sup> Windows<sup>®</sup> 95/98/ME/2000/NT4.0 (以下「Windows」と表記)で使用するために必要なドライバが用意されています。

Notebook PCのプリインストールモデルのOSには、Microsoft Windows ME (Millennium Edition) または Windows 2000があります。インストールオプションと言語は、Notebook PCを使用する地域に依存します。サポートされているハードウェアおよびソフトウェアは、インストールされているOSによって異なります。OSがプリインストールされていないNotebook PCについては、このマニュアルの記述と異なる場合があります。

Notebook PCにOSがインストールされていない場合、あるいは、別のOSをインストールしたい場合は、このマニュアルの次のページから、Windows<sup>™</sup>の典型的な設定方法について詳細に述べています。各アプリケーションについては、そのアプリケーションのオンラインマニュアルを参照してください。以下の図は、サポートCDをドライブにセットした時、最初に表示される画面です。もし、この画面が表示されない場合は、「マイコンピュータ」のCD-ROMアイコンをダブルクリックするか、サポートCDのルートディレクトリにある「SETUP.EXE」を実行してください。

起動画面 (Windows ME)



起動画面 (Windows 2000)



## ドライバの概要 (Windows ME & 2000)

以下は、起動画面の各メニューについての概要です。サポートCDは予告なしに内容が変更される場合がありますので、本マニュアルの記述とお使いのサポートCDの内容が一致しない場合があります。Windowsのプロパティに表示されるドライバ名は、実際は具体的な名前が表示されます。Windowsに添付されているドライバは、すべてのメーカーのものを含んでいませんし、各ドライバは常にアップデートされています。Windows標準のドライバの代わりにサポートCDのドライバをお使いください。

### VGA Driver (必要)

Notebook PCでディスプレイを最適に表示させるため「Silicon Motion Lynx3DM」ビデオドライバが必要です。本ドライバをインストールすると「ディスプレイのプロパティ」で解像度や色数を変更できるようになります。デスクトップを右クリックして「プロパティ」を選択するか、コントロールパネルで「ディスプレイ」を選択します。本章で基本的なディスプレイの設定について解説しています。さらに詳しくは、Windowsのヘルプやドキュメントを参照してください。

### Control Panel (オプション)

2画面同時表示機能「DualView」および「DualApp」をサポートする「Silicon Motion Control Program」をインストールします。

### Audio Driver (Windows 2000に必要)

Notebook PC内蔵のオーディオ音源を使用するのに必要なドライバです。本ドライバは「ESS Allegro-1.COMM」音源で広帯域オーディオ再生や、内蔵モデムとともに使用する「Unimodem Full-Duplex Audio Device」を有効にします。オーディオの設定はWindowsで行います。詳しくは、Windowsのヘルプやドキュメントを参照してください。

### SpeedStep (推奨)

Intel<sup>®</sup> SpeedStep<sup>™</sup>をインストールします。これは、CPUスピードを用途に応じて最適に調整するテクノロジーで、最大パフォーマンスモードやバッテリー駆動時の省エネルギーモードを自動で切り替えます。Notebook PCのAC電源使用時とバッテリー駆動時で、CPUのクロックや電圧を切り替えます。切り替えは、1/2000秒という短い時間で行われますので、アプリケーションを使用している最中でも全く気づくことはありません。

### ASUS PC Probe (オプション)

Notebook PCの温度や電圧などを監視する「PC Probe」をインストールします。Notebook PCの管理に便利なオプションソフトウェアです。

### TouchPad (推奨)

Synaptics<sup>®</sup>社製タッチパッドユーティリティです。Notebook PCは、内部および外部キーボードとPS/2マウスをサポートします。Notebook PC内蔵のタッチパッドは2/3ボタンマウスと互換性があります。しかし、本ドライバをインストールすると、独自の機能を有効にし、より便利に使用することができます。詳しくは次章のソフトウェアリファレンスを参照してください。また、タスクバーのタッチパッドアイコンを右クリックして表示されるメニューにヘルプがありますので参照してください。

## Fast IR Driver (必要)

Notebook PC内蔵の赤外線ポートを適切に使用するための「IBM 31T1100」ドライバです。

## LAN Driver (Windows ME & 2000ではインストール済み)

Notebook PC内蔵の 10/100 Fast-Ethernetコントローラ用ドライバです。

## Modem Driver

Notebook PC内蔵モデム用の「HSP56 MR」ドライバと、内蔵音源用の「Unimodem Full-Duplex Audio Device」ドライバです。

## PC-cillin 2000 (オプション)

Trend社製 PC-cillin 2000をインストールします。これは、インターネット時代のためのアンチウィルスソフトの世界標準です。ウィルスから重要なアプリケーションを保護するために、このソフトウェアをインストールすることをお勧めします。すでに他のアンチウィルスソフトウェアをお持ちの場合は必要ありません。

## Hotkey Utility (オプション)

「ホットキー」用のユーティリティです。これは、ホットキーが押された時にアプリケーションを起動できるように設定を行うプログラムです。このユーティリティでは、デフォルトのホットキーや他のソフトウェア・Windows・Notebook PCのハードウェアで定義されたキーの組み合わせは変更できません。現在、このユーティリティは、Windows 2000/NT4.0では、使用できません。

## Screen Saver Utility (オプション)

「Screenweaver」スクリーンセーバーをインストールします。これは「Macromedia Flash」を用いて、S8 Series Notebook PC用に作成されたものです。Flashファイルは、¥ S8Screenにあり、単独でも実行できます。

## Read Me

サポートCDおよびNotebook PCに関する注意事項が書かれています。

## Browse this CD

Windows ExplorerでサポートCDの内容を閲覧できます。

## Technical Support Form

不具合が発生したりテクニカルサポートが必要になった時に、必要事項を記入するための用紙です。

## Exit

サポートCDプログラムを終了します。

## ビデオドライバ

(2000: Item 1, ME: Item 1)

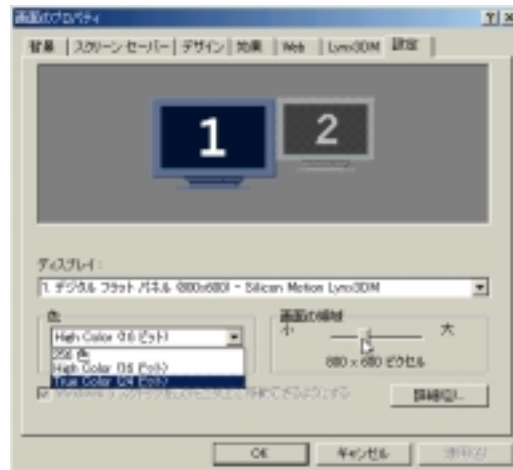
### Windows ME & 2000用ビデオドライバのインストール

初期状態では、ディスプレイはフルスクリーン表示されますが、解像度は低いものになっています。サポートCDの「VGA Driver」をクリックし、ドライバをインストールします。Notebook PCを再起動すれば高解像度を使用できるようになります。Windows MEの場合は、再起動するだけでいいですが、Windows 2000の場合は追加の設定が必要です。Windows 2000の場合、再起動後に高解像度になっていますが、ディスプレイエリアの3/4にしか表示されません。これを改善するには、以下のようにディスプレイのプロパティを設定します。

### ディスプレイのプロパティの設定



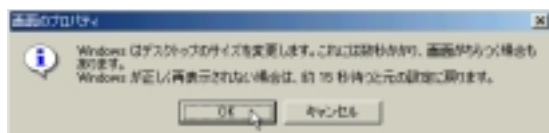
(1) デスクトップを右クリックし「プロパティ」を選択します。



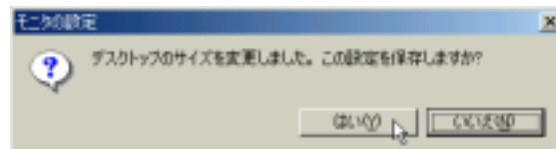
(2) 「設定」をクリックします。

(3) 色を「True Color」に、解像度を「800 x 600」（モデルによっては1024 x 768）に設定します。

注意：ディスプレイの解像度より大きな解像度に設定した場合、画面表示にスクロールする必要があります。



(4) OKをクリックしてテスト表示します。



(5) 「YES」をクリックし、設定を保存します。「NO」をクリックすると元の設定にもどります。

# コントロールパネル

(2000: Item 2, ME: Item 2)

## Windows ME & 2000用 コントロールパネルのインストール

インストール方法はWindows ME/2000共通です。詳しくは本ユーティリティの「ソフトウェアリファレンス」を参照してください。サポートCDをセットして、メニューの「Control Panel」をクリックすると以下のウィザードが始まります。



(1) 「Next」をクリックします。



(2) プログラムアイコンをインストールするディレクトリを選択して「Next」をクリックします。



(3) 注意事項を読んで「Finish」をクリックします。



タスクバー

(4) Windowsを再起動すると、タスクバーにSMIアイコンが表示されるようになります。これをダブルクリックするとディスプレイの設定を確認したり変更したりできます。または、スタートメニューの「Silicon Motion Control Programs」を選択します。

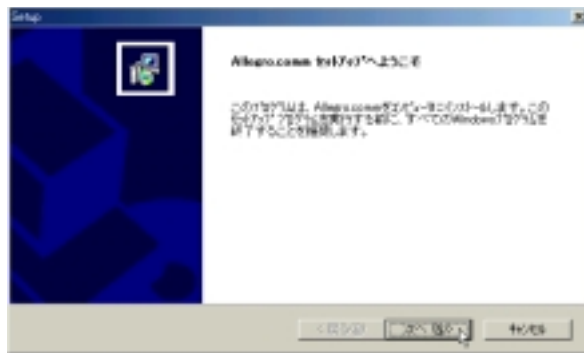
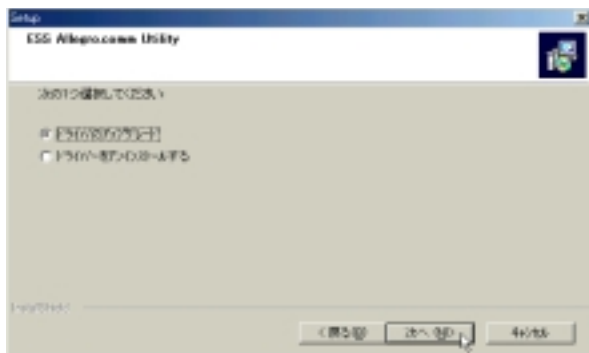


# オーディオドライバ

(2000: Item 3, ME: Item 3)

## Windows 2000用オーディオドライバのインストール

Windows MEの場合は、オーディオドライバはインストール済みです。サポートCDをセットして、メニューの「Audio Driver」をクリックすると以下のウィザードが始まります。Windows 2000には本ドライバが必要ですが、Windows MEの場合はドライバはインストール済みです。本ドライバは音が聞こえない場合、タスクバーにスピーカアイコンが表示されない場合にインストールしてください。



(\* ) Windows MEの場合は、ドライバがインストール済みですので、ドライバのアップグレード/削除の画面になります。「Cancel」をクリックして終了させてください。

(1) 「Next」をクリックします。



(2) デジタル署名がないというメッセージが表示されますが、問題ありませんので、「Yes」をクリックします。

(3) ドライバのインストール後「OK」をクリックするとWindowsが再起動します。

オーディオドライバ

# オーディオドライバ(つづき)

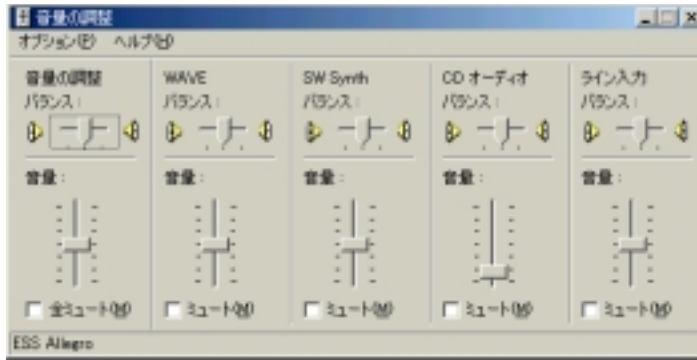
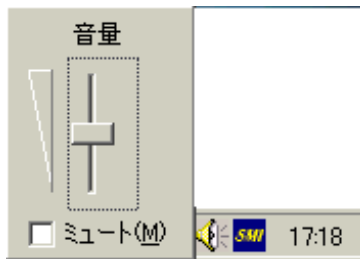
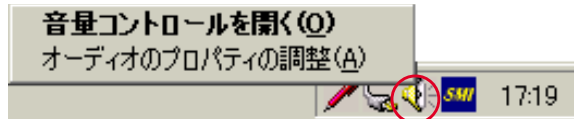
## オーディオの設定

タスクバーのスピーカアイコンを右クリックするとマスターコントロール画面が表示されます。右クリックすると詳細な設定画面が起動します。

左クリックの場合



右クリックの場合

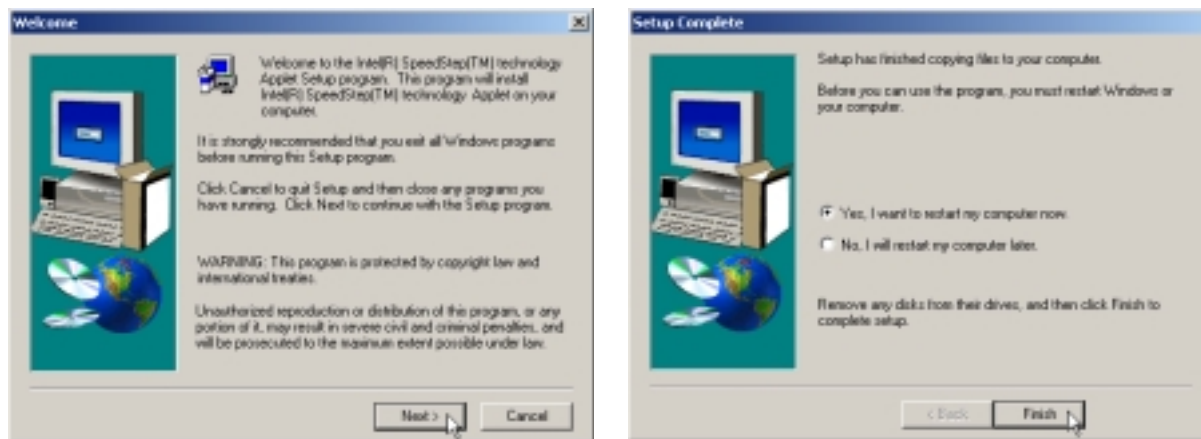


# SpeedStep

(2000: Item 4, ME: Item 4)

## Windows ME & 2000用 SpeedStepのインストール

インストール方法はWindows ME/2000共通です。サポートCDをセットして、メニューの「SPEEDSTEP」をクリックすると以下のウィザードが始まります。



(1) 「Next」をクリックします。

(2) インストール後、再起動するなら「Yes...」を、他のドライバをインストールするなら「No...」をチェックして「Finish」をクリックします。

# ASUS PC Probe

(2000: Item 5, ME: Item 5)

## Windows ME & 2000用 PC Probeのインストール

インストール方法はWindows ME/2000共通です。サポートCDをセットして、メニューの「PC Probe」をクリックすると以下のウィザードが始まります。

注意：PCProbeは、IntelLDCMや他の監視ユーティリティがインストールされていると動作しません。PCProbeをインストールする前に他の監視ソフトウェアをアンインストールしてください。



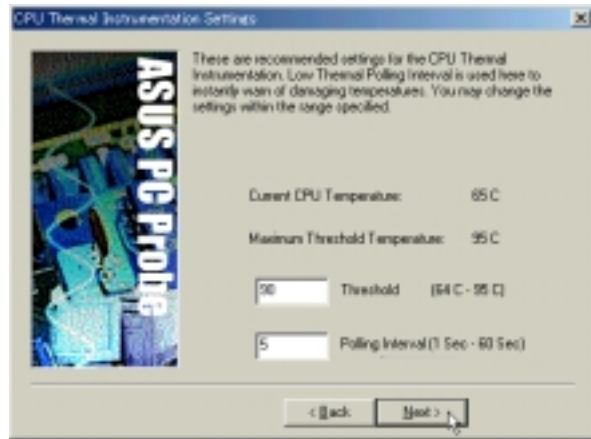
(2) 「Next」をクリックします。



(3) インストールするディレクトリを選択して「Next」をクリックします。



(4) 「Next」をクリックします。



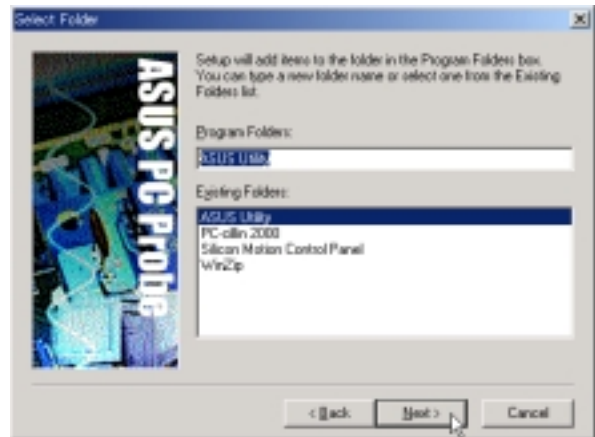
(5) ここで設定を変更することもできます。「Next」をクリックします。

注意：この設定はあとから変更することもできます。監視周期のデフォルトは5秒ごとです。この周期を短くするとリアルタイム性は上がりますが、システムのパフォーマンスは下がります。

## ASUS PC Probe (つづき)



(6) 設定を確認して「NEXT」をクリックします。



(7) プログラムアイコンを作成するディレクトリを選択して「Next」をクリックします。



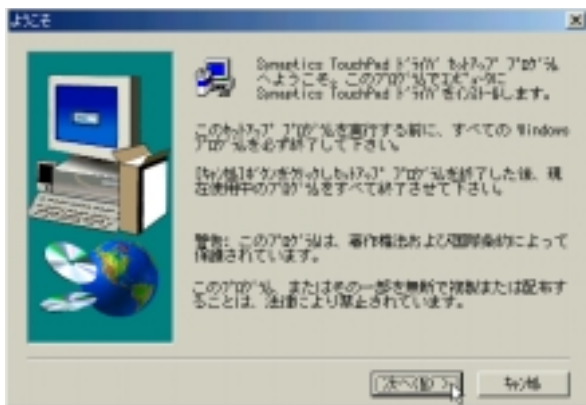
(8) 必要なオプションをチェックして「Finish」をクリックします。

# タッチパッド

(2000: Item 6, ME: Item 7)

## Windows ME用 タッチパッドドライバのインストール

Windows 2000については次ページに記述があります。サポートCDをセットして、メニューの「TouchPad」をクリックすると以下のウィザードが始まります。



(1) 「Next」をクリックします。



(2) インストールするディレクトリを選択して「Next」をクリックします。



(3) 「Next」をクリックします。

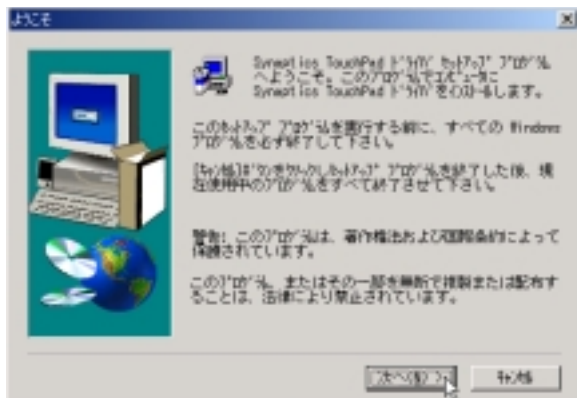


(4) 他のドライバをインストールするなら「No...」をチェックして「Finish」をクリックします。

# タッチパッド (つづき)

## Windows 2000用タッチパッドドライバのインストール

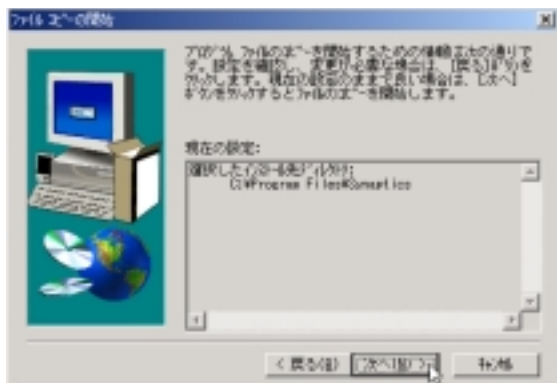
Windows MEについては前ページに記述があります。サポートCDをセットして、メニューの「TouchPad」をクリックすると以下のウィザードが始まります。



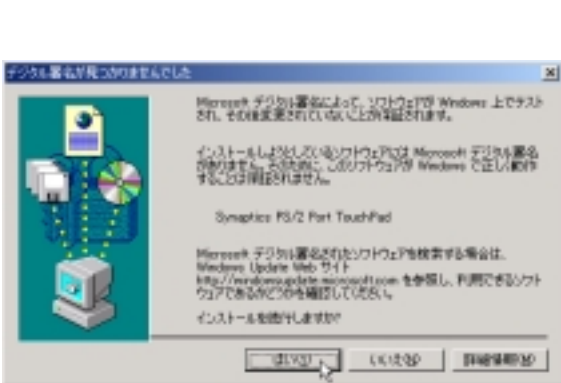
(1) 「Next」をクリックします。



(2) インストールするディレクトリを選択して「Next」をクリックします。



(3) 「Next」をクリックします。



(4) デジタル署名がないというメッセージが表示されますが、問題ありませんので、「Yes」をクリックします。



(5) 他のドライバをインストールするなら「No...」をチェックして「Finish」をクリックします。

## Fast IR(赤外線)ドライバ

(2000: Item 7, ME: Item 10)

### Windows ME & 2000用 Fast IR(赤外線)ドライバのインストール

Fast IR(赤外線)ドライバは、Windows にインストール済みですが、Notebook PC用に1つだけ追加の設定が必要です。サポートCDをセットして、メニューの「Fast IR Driver」をクリックすると以下のダイアログボックスが表示されます。



- (1) 自動で設定が終了し、Windowsの再起動を促すメッセージが表示されます。「YES」をクリックすると再起動します。

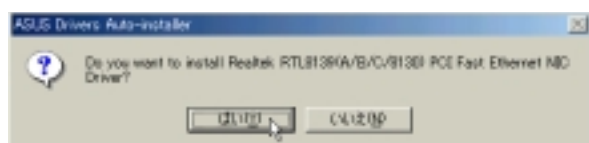


## LAN ドライバ

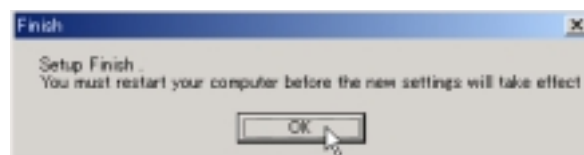
(2000: Item 8, ME: Item 6)

### Windows ME & 2000用 LANドライバのインストール

LANドライバは、Windows 2000 および MEにインストール済みです。ネットワーク接続に関する問題については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。再インストールする必要がある場合は、サポートCDをセットして、メニューの「Lan Driver」をクリックすると以下のウィザードが始まります。



(1) 「OK」をクリックするとインストールが始まります。



(2) インストールが終了するとWindowsの再起動を促すメッセージが表示されます。「OK」をクリックすると再起動します。

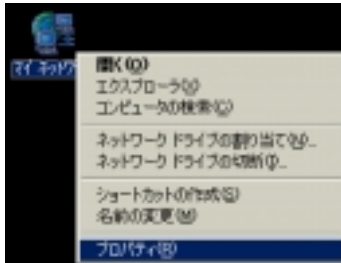
## ネットワークデバイスの設定

全2重(フルデュプレックス)モードの場合、ネットワークデバイスは10または100 Mbpsというスピードでパケットの送受信を同時に行います。全2重モードを使用するには、ハブもこれに対応している必要があります。

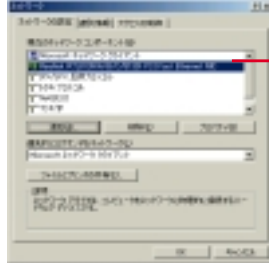
ネットワークデバイスは、(スイッチング)ハブに、どのモードを用いればいいのか問い合わせる機能を持ちます。これを「auto-negotiation」と呼びます。ハブが、全2重モードおよびauto-negotiationに対応している場合は「auto(自動)」に設定します。対応していない場合は「Duplex Mode」を「Full」に、「SPEED」を「100 Mbps」または「10 Mbps」に設定します。

(例は、次ページ参照)

## LANアダプタの設定変更 (Windows ME)

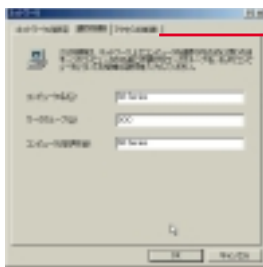
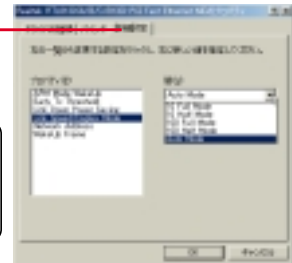


「マイネットワーク」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。

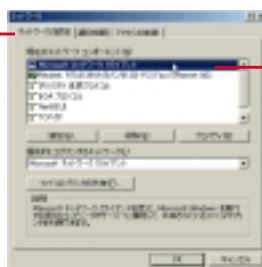


「Realtek driver」をダブルクリックします。

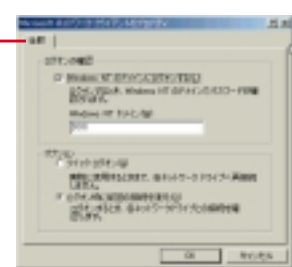
「詳細」タブで10または100のモードを設定します。



各タブをクリックします。



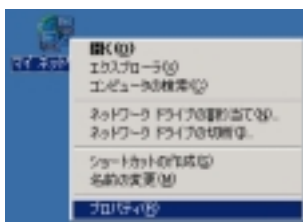
「ネットワーククライアント」をダブルクリックしてログオン情報を設定します。



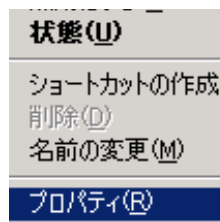
「識別情報」タブにはネットワーク上でNotebook PCを識別するための情報を入力します。ネットワーク管理者に確認してください。

Windows NTのドメインに参加するためには、「Microsoftネットワーククライアント」をダブルクリックしてドメイン名を入力します。

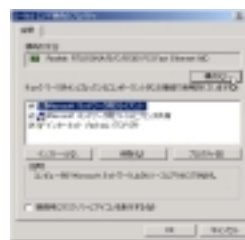
## LANアダプタの設定変更 (Windows 2000)



「マイネットワーク」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。



「ローカルエリア接続」を右クリックして「プロパティ」を選択します。



「構成」をクリックして、ドライバの設定を行います。

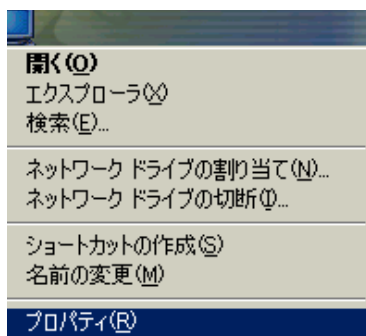


# モデムドライバ

(2000: Item 9, ME: Item 8)

## Windows ME用モデムドライバのインストール

Windows 2000については次ページに記述があります。サポートCDをセットして、以下の手順を実行します。この項目にはウィザードはありません。



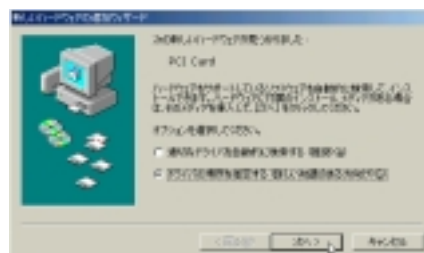
(1) 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。



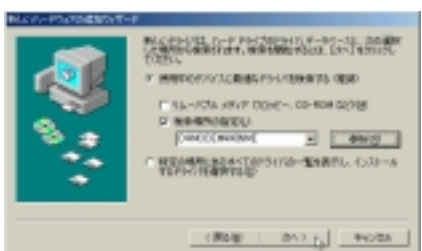
(2) 「PCI Card」をダブルクリックします。



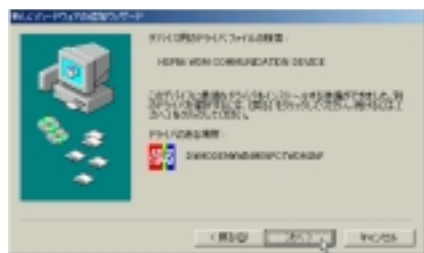
(3) 「ドライバーの更新」をクリック



(4) 「場所を指定・・・」を選択して「NEXT」をクリックします。

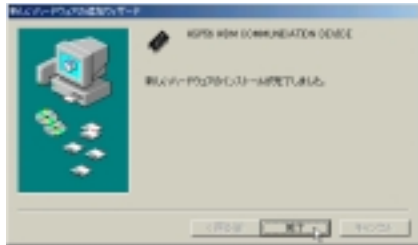


(5) 「¥modem¥winme」と入力して「NEXT」をクリックします。

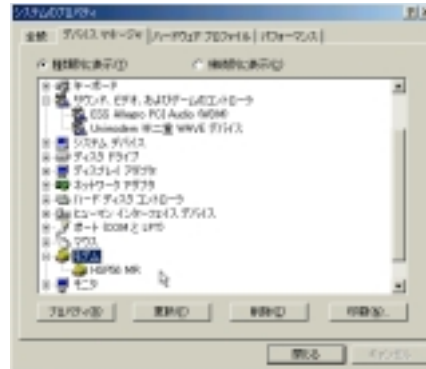


(6) ドライバを確認して「NEXT」をクリックします。

## Windows ME用モデムドライバのインストール(つづき)



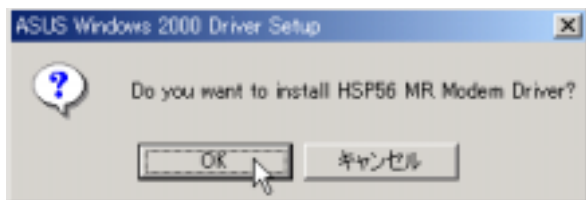
(7) 「Finish」をクリックしてインストール終了です。



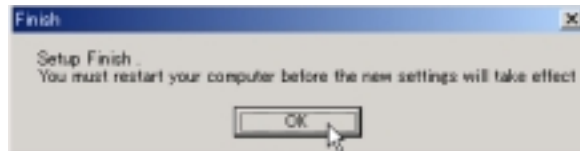
(\*) デバイスマネージャに「HSP56 MR」「Unimodem Half Duplex Wave Device」があることを確認してください。

## Windows 2000用モデムドライバのインストール

Windows MEについては前ページに記述があります。サポートCDをセットして、メニューの「Modem Driver」をクリックすると以下のウィザードが始まります。



(1) 「OK」をクリックします。



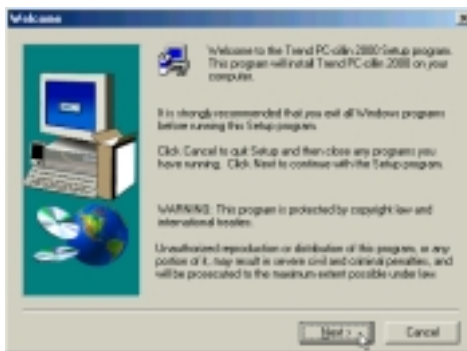
(2) インストールが終了するとWindowsの再起動を促すメッセージが表示されます。「OK」をクリックすると再起動します。

# PC-cillin 2000

(2000: Item 10, ME: Item 9)

## Windows ME用 PC-cillin2000 アンチウイルスソフトウェア

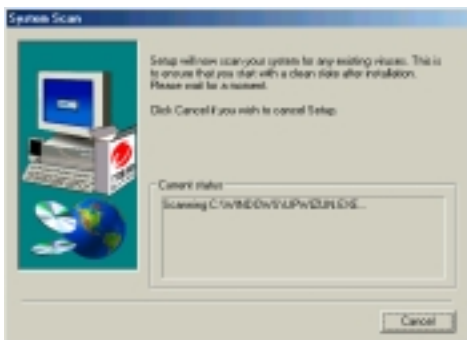
Windows2000についてはP.25に記述があります。サポートCDをセットして、メニューの「PC-cillin 2000」をクリックすると以下のウィザードが始まります。



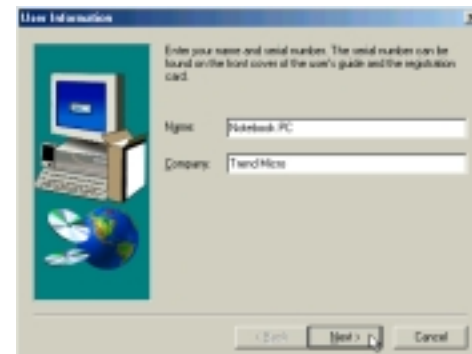
(1) 「Next」をクリックします。



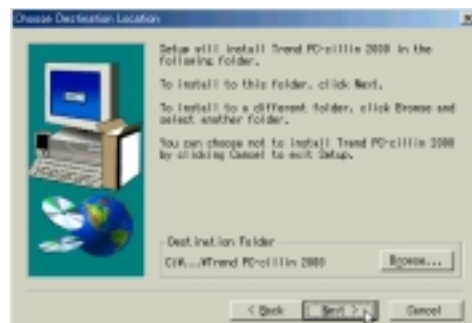
(2) 「YES」をクリックします。



(3) インストール前にウイルスチェックを行います。(最新の検索パターンは<http://www.trend.com>にあります。インストール後、最新パターンを用いて再度チェックを行うようにしてください。)「OK」をクリックします。



(4) 名前と会社名を入力して「Next」をクリックします。

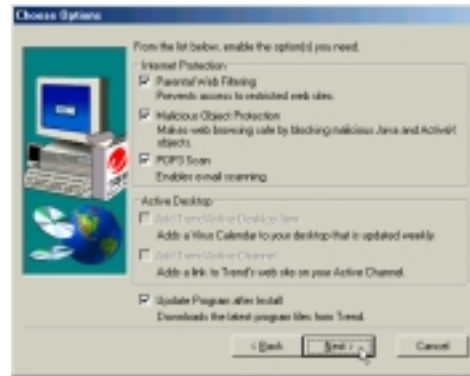


(5) インストールするフォルダを選択して「Next」をクリックします。

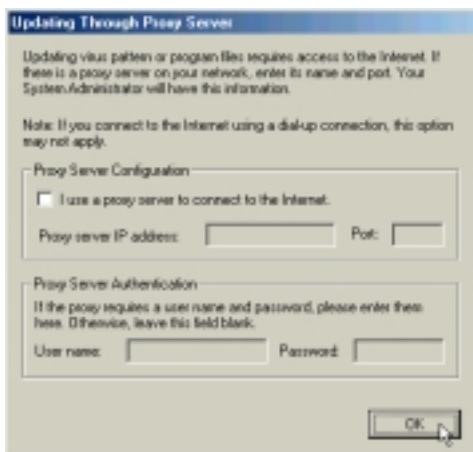
## Windows ME用PC-cillin2000アンチウィルスソフトウェア(つづき)



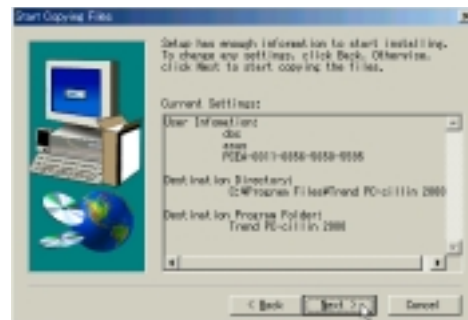
(6) アイコンを作成するフォルダを選択して「Next」をクリックします。



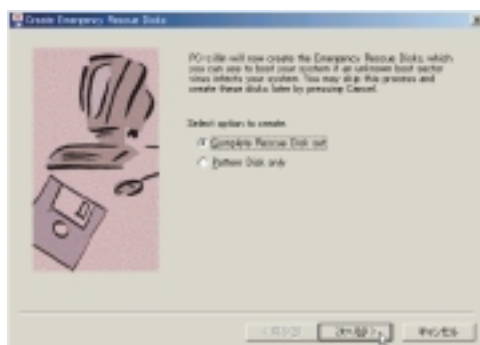
(7) 各設定を行い「Next」をクリックします。



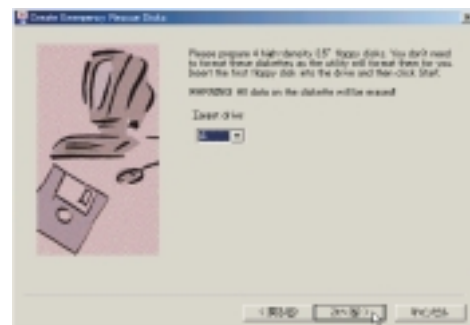
(8) 必要ならばプロキシの設定を行い「Next」をクリックします。



(9) 設定を確認して「Next」をクリックします。

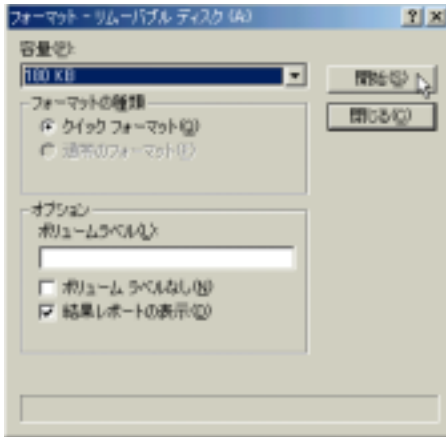


(10) 救済ディスクまたはパターンディスクを作成します。USBフロッピードライブが必要です。準備ができたら「Next」をクリックします。

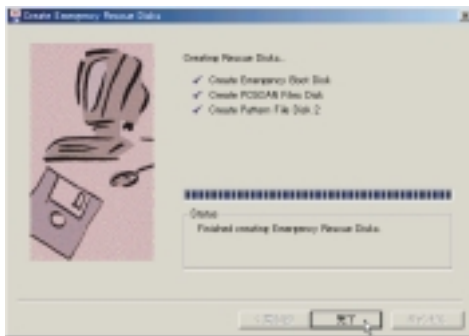


(11) FDのドライブ名を入力して「Next」をクリックします。

## Windows ME用PC-cillin2000アンチウイルスソフトウェア(つづき)



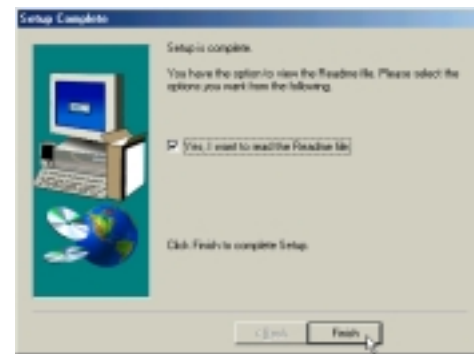
(12) FDをフォーマットします。「クイック…」または「通常の…」を選択して「開始」をクリックします。終了したら「閉じる」をクリックします。4枚のフォーマット済みディスクを作成する必要があります。



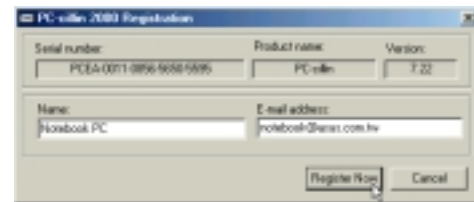
(14) 救済ディスクができたなら「Finish」をクリックします。



(13) 救済ディスクを作成するには、この手順を4回繰り返します。

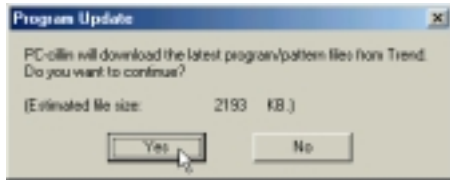


(15) 「Finish」をクリックしてインストール完了です。

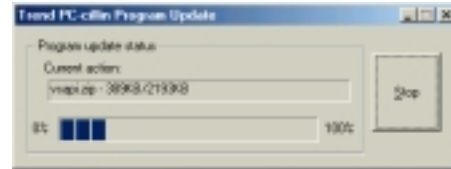


(16) ユーザー登録用の名前とE-Mailアドレスを入力します。

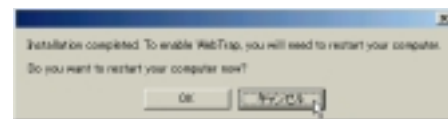
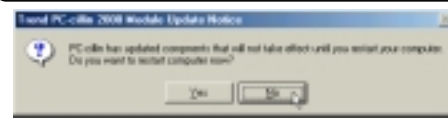
## Windows ME用PC-cillin2000アンチウィルスソフトウェア(つづき)



(17) 「Yes」をクリックすると最新バージョンにアップデートします。



(18) インターネットから最新ファイルをダウンロードします。しばらくお待ちください。

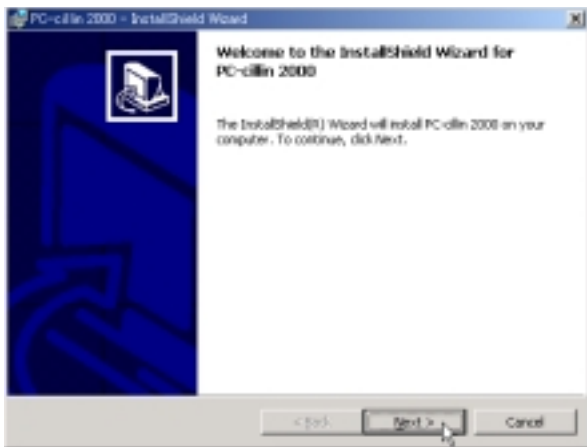


(19) 他のドライブをインストールするためには、「NO」または「Cancel」をクリックします。



## Windows 2000用PC-cillin2000アンチウィルスソフトウェア

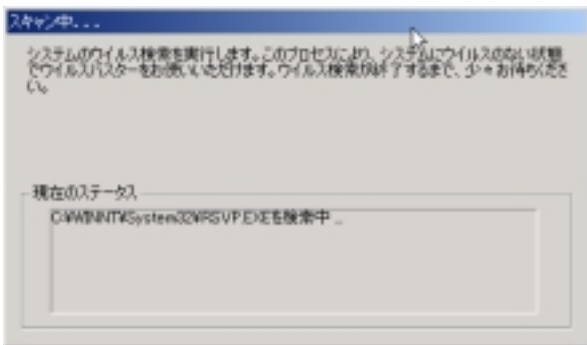
IWindows2000についてはP21.に記述があります。サポートCDをセットして、メニューの「PC-cillin 2000」をクリックすると以下のウィザードが始まります。



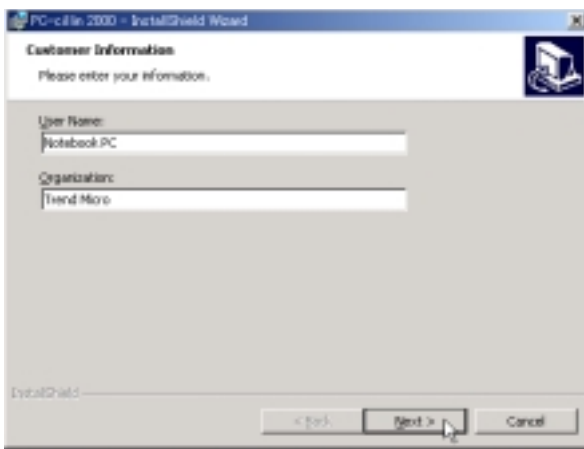
(1) 「Next」をクリックします。



(2) ライセンス承諾書を読んでから「Next」をクリックします。

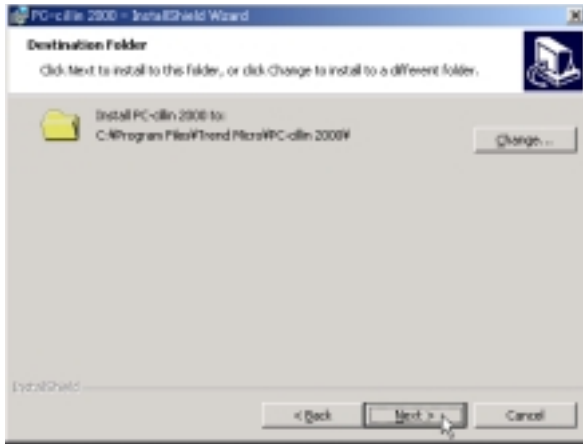


(3) インストール前にウィルスチェックを行います。(最新の検索パターンは <http://www.trend.com>にあります。インストール後、最新パターンを用いて再度チェックを行うようにしてください。)「OK」をクリックします。

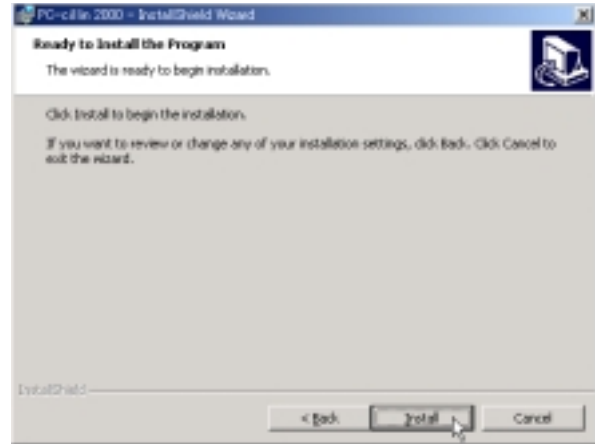


(4) 名前と会社名を入力して「Next」をクリックします。

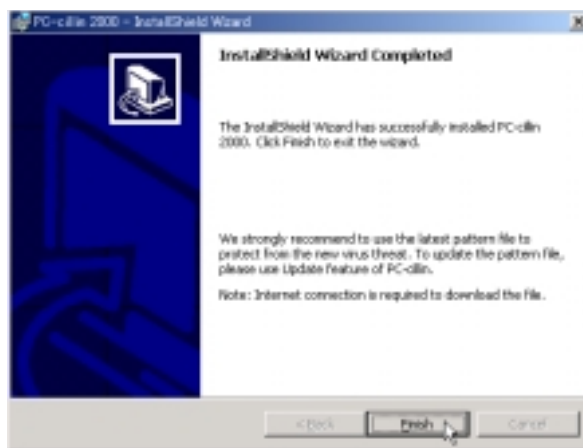
## Windows2000用PC-cillin2000アンチウイルスソフトウェア(つづき)



(5) インストールするフォルダを設定して「Next」をクリックします。



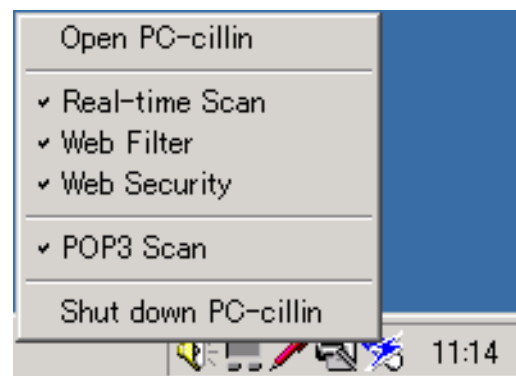
(6) 「Install」をクリックするとインストールが始まります。設定を変更するには「Back」をクリックします。



(7) インストールが終了したら「Finish」をクリックします。再起動は不要です。



(\*) タスクバーにアイコンが表示されウイルス保護状態を確認できます。アイコンをクリックすると設定画面が起動します。



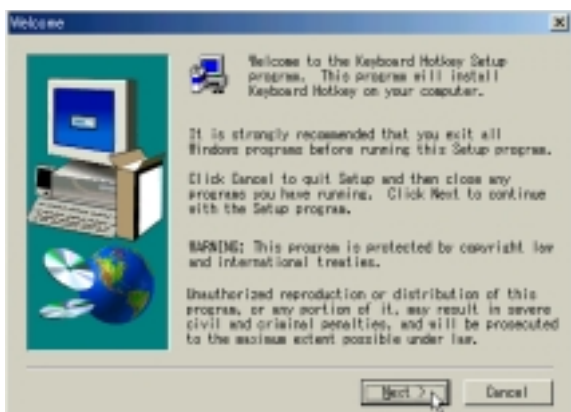
(\*) アイコンを右クリックすると簡易設定メニューが開きます。

# ホットキーユーティリティ

(2000: None, ME: Item 11)

## Windows ME用ホットキーユーティリティのインストール

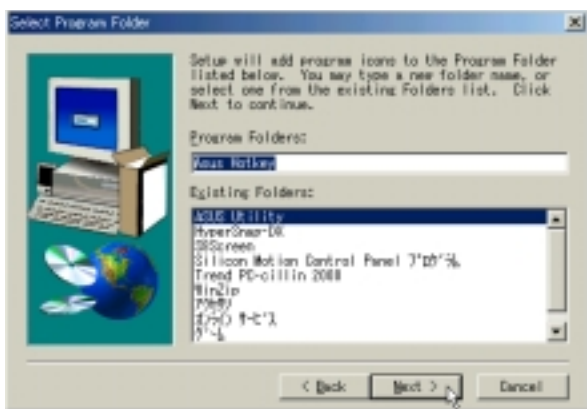
現時点では、Windows 2000では動作しません。サポートCDをセットして、メニューの「Hotkey Utility」をクリックすると以下のウィザードが始まります。



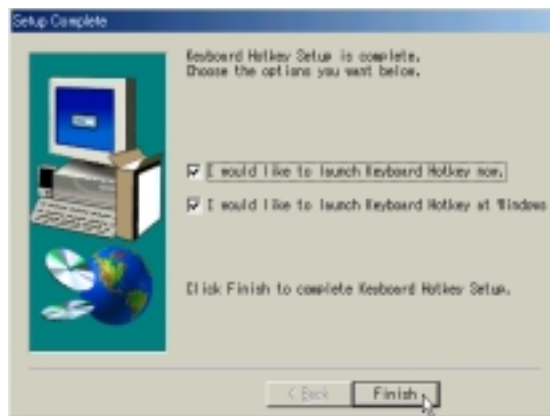
(1) 「Next」をクリックします。



(2) インストールするフォルダを選択して「Next」をクリックします。



(3) アイコンを作成するフォルダを選択して「Next」をクリックします。

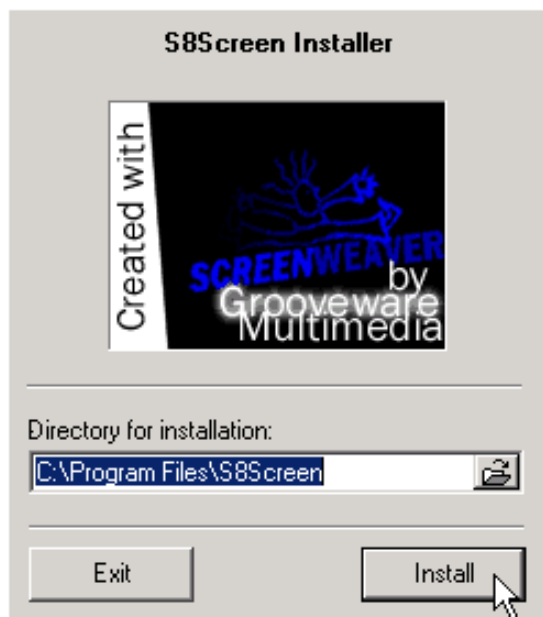


(4) すぐにユーティリティを起動するならチェックをつけて「Finish」をクリックします。

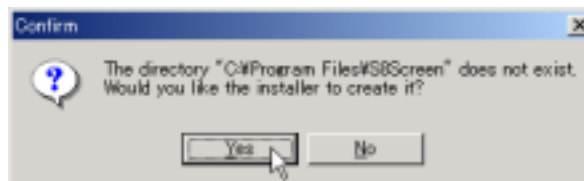
## スクリーンセーバーユーティリティ (2000: Item 11, ME: Item 12)

### Windows ME & 2000用スクリーンセーバーのインストール

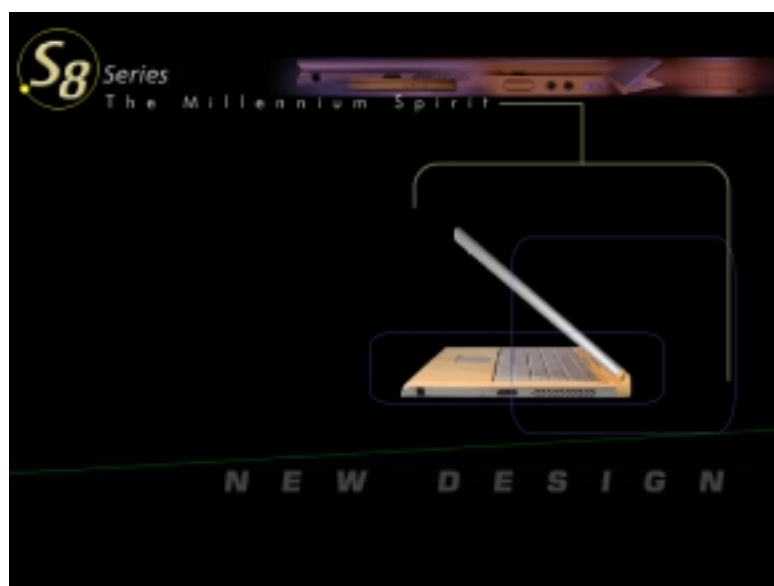
Windows MEと2000でインストール手順は同じです。.サポートCDをセットして、メニューの「Screen Saver Utility」をクリックすると以下のウィザードが始まります。



(1) インストールするフォルダを設定して「Install」をクリックします。



(2) フォルダの作成の確認メッセージに対して「Yes」をクリックします。スクリーンセーバーがインストールされ直ちに有効になります。



Notebook PC

ソフトウェア リファレンス

Windows ME & 2000

# 目次

Notebook PC	29
ビデオドライバ	33
デュアルディスプレイの設定 (Windows ME and 2000)	34
外部モニタを使う	34
ディスプレイの配置	36
色の設定について	36
SPEEDstep	37
Intel <sup>(R)</sup> SpeedStep <sup>TM</sup> の概要	38
動作原理	38
IT管理者へ	39
まとめ	39
SpeedStepのプロパティと設定	40
SpeedStepソフトウェアについて	42
ASUS PC Probe	43
ASUS PC Probe	44
ASUS PC Probe スタート	44
ASUS PC Probe モニタの使用方法	45
ASUS PC Probe タスクバーアイコン	46
タッチパッド	47
Synaptics <sup>(R)</sup> タッチパッドの概要	48
ボタンをクリックするかわりの「タップ」	48
ボタンを使用しないで行う「ドラッグ」	48
タッチパッドの感度調整	49
ボタンとタップのカスタマイズ	49
タイピング中のポインタ移動禁止	50
バーチャルスクロール	50
ズームイン/ズームアウト/パンニング	50
ポインタを長い距離移動するには	51
ポインタ移動の微調整	51
アクセサリ	51
追加情報	51

プロパティページ .....	51
Scrolling Properties Page .....	52
Button Actions and Tap Zones Properties Pages .....	53
More Features Properties Page .....	54
Button Actions Properties Page .....	55
Touch Properties Page .....	56
Edge Motion Properties Page .....	57
よくある質問 .....	58
PC-cillin 2000 .....	61
PC-cillin へようこそ .....	62
ホットキーユーティリティ .....	67
ASUSホットキー .....	68
ボタン .....	68
ホットキーの動作 .....	69
Run Program : ユーザープログラムの追加 .....	72
付録 .....	73
新しいHDDを使用する .....	74
起動用ディスクの作成 .....	74
FDISK.EXEの使用方法 .....	74
HDDのフォーマット .....	74
Save-to-Diskの使用法 (Windows 95/98) .....	75
Save-to-Disk用パーティションの作成方法 .....	75
Save-to-Disk用ファイルの作成方法 .....	75
BIOSアップデート .....	76
BIOSアップデート用FDの作成 .....	76
HDDでBIOSアップデートを利用する .....	76
FDからのBIOSアップデート手順 .....	77
HDDからのBIOSアップデート手順 .....	77
Modem Communication Regulations (モデム規格) .....	78
FCC Regulations .....	78
FCC Part 68 Requirements .....	78
Modem Declaration Of Conformity .....	79
Canadian Department Of Communications (CDOC): .....	79





# ビデオドライバ

---

---

主な内容 :

デュアルディスプレイの設定

ディスプレイの配置

外部モニターを使用する

色の設定

---

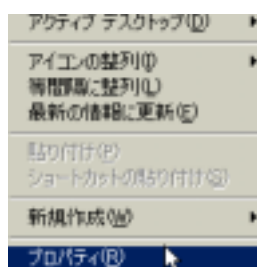
---

## デュアルディスプレイの設定 (Windows ME および 2000)

ディスプレイのプロパティには2台分のディスプレイの設定があります。それぞれのディスプレイは独立して、解像度・色数・モニタータイプを設定・調整できます。デュアルディスプレイの機能には以下の2つがあります。

- ・ Dual Application(デュアルアプリケーション)：2台のディスプレイに別々のアプリケーションを表示できます。一方のディスプレイで表計算、もう一方でプレゼンテーションソフトを使う、といったことができます。
- ・ Dual View(デュアルビュー)：メインディスプレイの任意の領域を2台目のディスプレイに拡大表示できます。

### Lynx3DMの設定



(1) デスクトップを右クリックしてプロパティを選択します。



(2) 「設定」タブをクリックします。



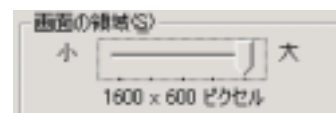
(3) 「詳細」をクリックし「Lynx3DM」タブをクリックします。

### 外部モニターを使う

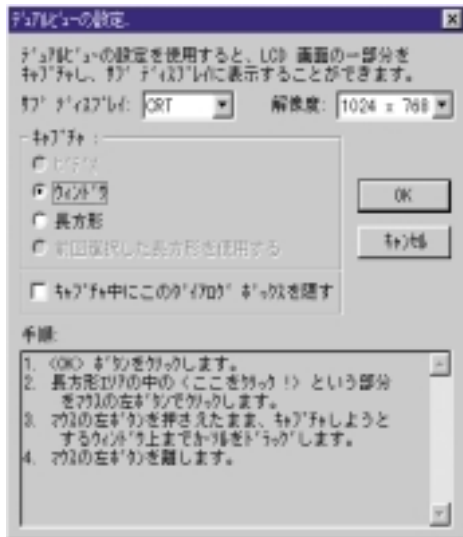
ファンクションキー<Fn><F8>を押すたびに、ディスプレイ出力が、Notebook PC LCD → 外部モニター → 両方の順番で切り換わります。この操作はソフトウェアでも可能です。



注意：DualViewおよびDualAppは同時には実行できません。また、色数が「High Color (16 bit)」以上である必要があります。



注意：DualView または DualApp を有効にして解像度を1600x600以上に設定するとカーソルが画面の外に隠れてしまいます。



DualViewには、いくつかの設定項目があります。いくつかの設定を試して、お使いの環境に最適なものを選んでください。



この画面で、ディスプレイ機能呼び出すホットキーを設定します。上図はその一例です。ホットキーを有効にするには、Lynx3DM画面(前ページ)で「Enable Hot Key」をチェックします。

## Lynx3DM 設定 (Windows 2000)

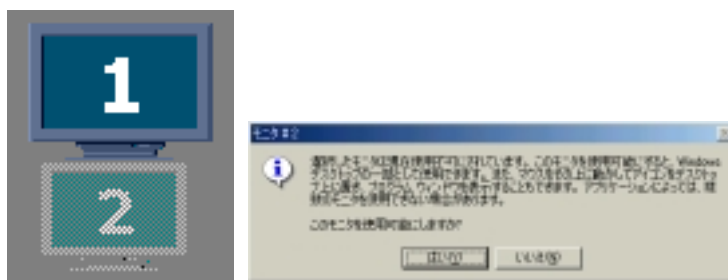


Windows2000の「Lynx3DM」設定画面はWindowsMEと同様ですが、「Stretch」機能が追加されています。この機能は本Notebook PCには必要ありません。



## ディスプレイの配置

2つの画面の位置関係を設定します。お使いのディスプレイの配置に合わせて、ディスプレイの絵をドラッグして移動します。下図は、2台目のディスプレイを1台目の下に設定した例です。

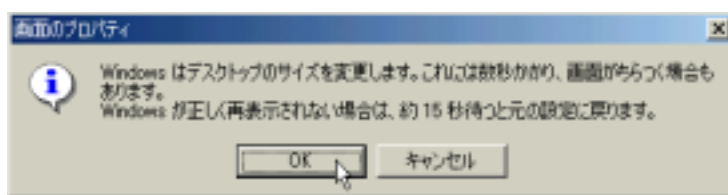


ディスプレイの配置が終わったら、2台目のディスプレイを有効にするために「Yes」をクリックします。「Extend my Windows desktop onto this monitor」のチェックを外すことにより、いつでも2台目を無効にすることができます。

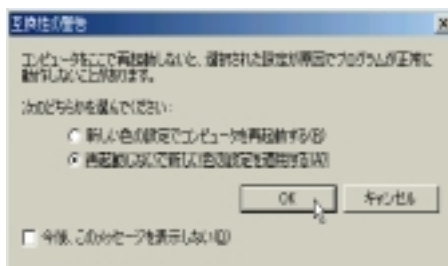
注意：この設定は、2台目のディスプレイ装置が接続されていなくても可能です。「Dual Application」および「DualView」機能を使用するには2台目のディスプレイ装置が接続されている必要があります。



Notebook PCでは、2台目のディスプレイの解像度は、True Colorで最大800 x 600ドットです。これ以上の解像度に設定すると何も表示されなくなります。



このダイアログボックスに対しては「OK」をクリックします。これは単なる確認画面です。



## 色の設定について

Notebook PCでは、左図の警告画面は無視して問題ありません。「再起動しないで新しい色の設定を適応する」と「今後このメッセージを表示しない」をチェックして「OK」をクリックします。

# SPEEDstep

---

---

## 主な内容 :

Intel<sup>(R)</sup> SpeedStep<sup>TM</sup> の概要

動作原理

IT 管理者へ

まとめ

SpeedStepのプロパティと設定

SpeedStep ソフトウェアについて

---

---

Windows ME & 2000

## Intel<sup>(R)</sup> SpeedStep™ の概要

クロック周波数600MHz以上のNotebook PC用プロセッサには、革新的なテクノロジー：Intel<sup>(R)</sup> SpeedStep™ が搭載されています。モバイルPentium III プロセッサに搭載されたこの技術により、Notebook PCでもデスクトップ機並みのパフォーマンスを得ることができます。Intel<sup>(R)</sup> SpeedStep™ 対応 モバイルPentium IIIを使用すると、AC電源使用時は、デスクトップレベルのパフォーマンスで動作し、バッテリー駆動の場合は、それを自動検出してクロック周波数と電圧を落とし、省電力をはかります。この新しい技術は、薄型液晶Notebook PCに特に有効で、ユーザーはそれを意識することなくモバイルを楽しむことができます。

### 動作原理

SpeedStep搭載モバイルPentium IIIプロセッサは、最大パフォーマンスモードとバッテリー最適化モードという2つの動作モードを持っていて、自動またはユーザーの命令によって切り替えて動作します。デフォルトでは、AC電源駆動なのかバッテリー駆動なのかを自動判別して切り替え動作を行います。AC電源の供給が停止した場合、プロセッサはピーククロック周波数<sup>1</sup>からバッテリー最適化クロック周波数<sup>2</sup>に自動で切り換わります。同時にコア電圧も1.6Vから1.35Vに低下します。再びAC電源が供給されると、自動で元のクロック・電圧に復帰します。

SpeedStepモードをユーザーが変更することもできます。例えば、バッテリー駆動の場合でもプレゼンテーションなどの重要な場面でフルパワーで動作させることができます。これを設定するアプレットはWindows\* のタスクバーにあります。プレゼンテーションが終了したら、もとのバッテリー最適化モードに戻します。

SpeedStep技術を用いると、総合な評価として、パフォーマンスを80%に維持しながらプロセッサの消費電力を45%に削減できます。コア電圧を落とすことは省電力につながります。電力は電圧の2乗に比例するからです。一方、クロック周波数は電力に比例します。この結果、電圧を少しでも下げると大いに省電力に貢献することになります。省電力によって、バッテリーを始めとするNotebook PCの部品の寿命も長くなります。

<sup>1</sup> ピーククロック	<sup>2</sup> バッテリー用最適化クロック
・ 600&650MHz	・ 500MHz
・ 700MHz	・ 550MHz
・ 750MHz	・ 600MHz
・ 800MHz	・ 650MHz
・ 850MHz	・ 700MHz

## IT 管理者へ

IT管理者にとって、Intel SpeedStepテクノロジーは、そのシームレスさにおいて歓迎されるでしょう。プロセッサを「スリープ」モードにする点で、Intel SpeedStepテクノロジーは、Intel<sup>®</sup>の QuickStartを使用していることがわかります。リジュームと同時にCPUは元のクロックと電圧に復帰します。アプリケーションの実行を開始するまでの時間は、0.5ミリ秒で、これは、まばたきするよりも短い時間です。

さらに、IT管理者は、事業に関して SpeedStepテクノロジーを気にする必要はありません。このテクノロジーは多くのOS : Microsoft Windows 95/98/ME および Windows NT 4.0/2000で問題なく機能します。

## まとめ

AC電源使用時は、モバイルPentium IIIプロセッサはピークスピードで動作します。バッテリー使用時には、クロック周波数と電圧を適切なレベルまで落とします。

- ・ 動作電圧は、AC電源時=1.6V、バッテリー使用時=1.35Vです。
- ・ 動作の切り替えは、使用している電源によって自動で切り替えられます。簡単なユーティリティを用いて手動で切り替えることも可能です。
- ・ 切り替え時間は、0.5ミリ秒以下で、ユーザーにとってもアプリケーションにとっても考慮の必要のない短い時間です。
- ・ SpeedStepテクノロジー対応Intel モバイル Pentium III プロセッサは、モバイルパソコン用にOEM供給され、デスクトップなみのパフォーマンスと機能を提供します。

# SpeedStepのプロパティと設定

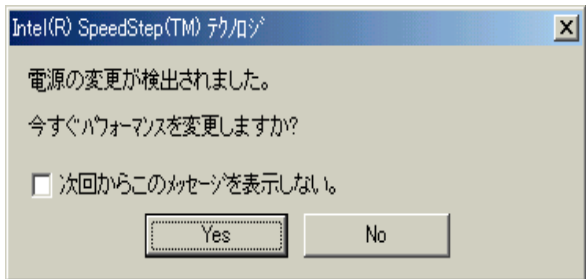
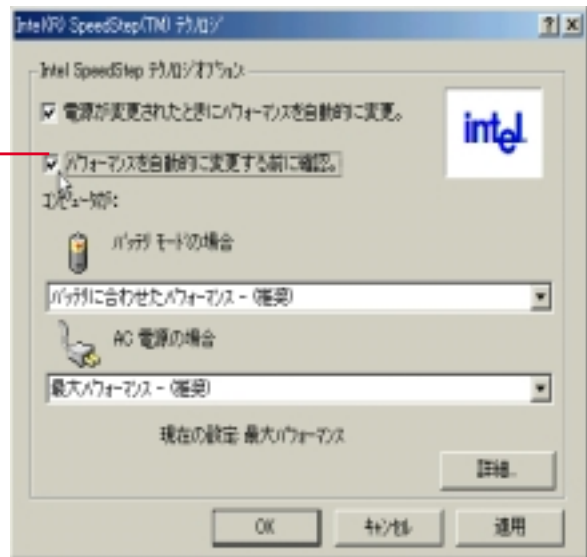
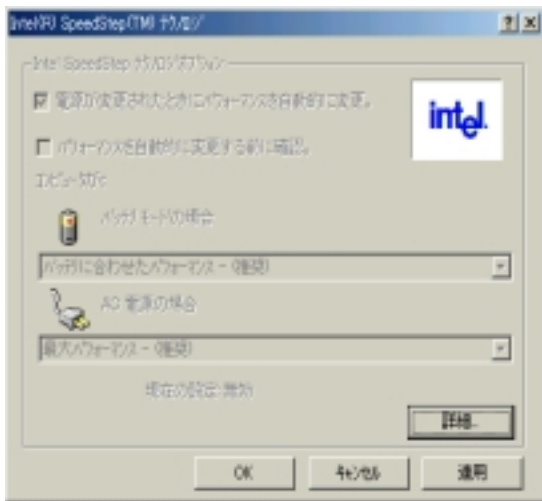
SpeedStep



注意：プロセッサのSpeedStepが機能していない場合、青い旗印に「X」が表示されます。プロパティ(ダブルクリックまたは右ボタンで表示されるメニューから選択)で原因をチェックしてください。



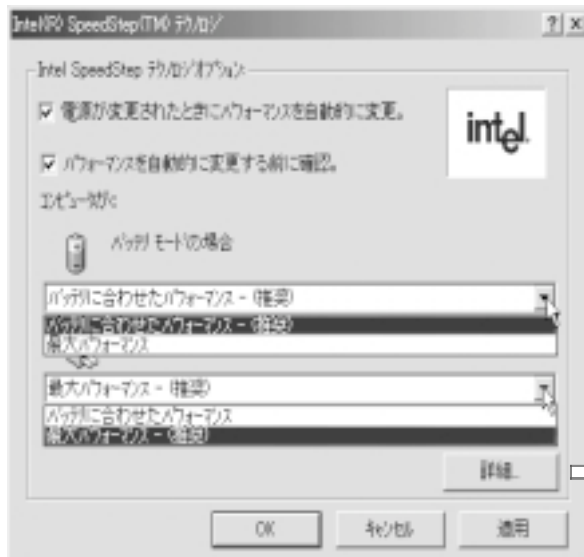
青い旗のアイコンにカーソルを重ねると現在のモードを表示します。Maximum Performance(AC電源時)またはBattery Optimized Performance(バッテリー使用時)の2つのモードです。



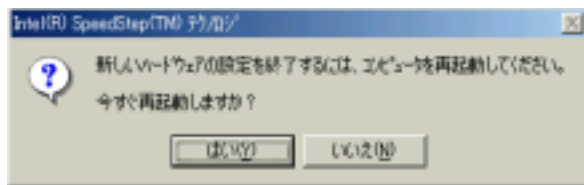
「Ask me before automatically changing performance」をチェックするとモード切り替え時に左の確認画面が表示されるようになります。



## SpeedStepのプロパティと設定(つづき)



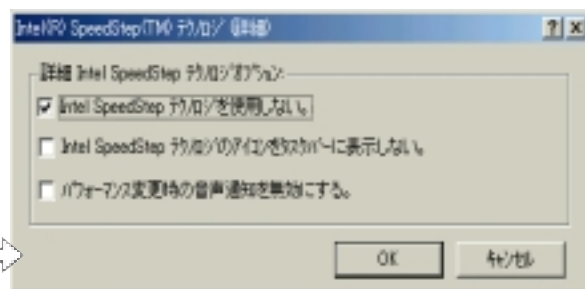
「running on batteries(バッテリー使用時)」と「plugged in(AC電源使用時)」の2つのモードについて個別に設定を行うことができます。



設定を変更したらNotebook PCを再起動する必要があります。



青い旗のアイコンを右クリックすると手動で動作モードを切り替えることができます。



「詳細」タブをクリックすると以下の項目があります。

Disable SpeedStep - SpeedStepを無効にし、常に最大スピードで動作するようになります。

Remove icon from taskbar - 青い旗のアイコンをタスクバーに表示しないようにします。この場合、設定はコントロールパネルの「電源管理」で行います。

Disable audio notification when performance changes - デフォルトでは動作切り替え時にサウンドが鳴るように設定されています。ここをチェックするとサウンドを鳴らないようにできます。

# SpeedStepソフトウェアについて

## 警告

本ソフトウェアは、System Management Mode (SMM) BIOS対応のライセンスされたPC 1台のみにインストールし使用することができます。この条件に適合しないシステムに対しては、ドライバが障害を与えることがあります。ライセンスされたPCは、(1)電源の変化・エンドユーザー・プロセッサの命令・温度条件により複数の実行状態(実条件による部分的な実行)にシームレスかつ自動的に移行する能力を持つ、(2)コア電圧・コアクロック周波数・バスクロック周波数・有効なプロセッサのコア数のいくつか、あるいはその組み合わせを変更することによって異なった実行状態に移行する能力、または、プロセッサの動作における効果(時間あたりの実行命令)を変更する能力を持つ Intel モバイルPentium II プロセッサ、Intel モバイルPentium III プロセッサ、または、他の Intel プロセッサを持ちます。

## ユーザーインターフェイス

ユーザーは、システムトレイアイコン(「flag」)、またはコントロールパネルの電源管理アイコンによってアクセス可能です。ユーザーは、(Windows 2000 または NT4.0においてアクセス制限されていない場合)ユーザーインターフェイスによって、コンピュータがAC電源またはバッテリーで動作している場合についてプロセッサのパフォーマンスレベルを選択できます。ユーザーインターフェイスはアプレットを停止させる拡張オプションを持ちます。アプレットを停止させることは、パフォーマンスとコントロールの切り替えを停止させることであって、BIOSのIntel SpeedStepテクノロジーを無効化させることではありません。アプレットは、SetSpeedStepSetup SMI のコマンド ECX = 0xFF の制御を無効化する保証はしません。Intel SpeedStepテクノロジーを完全に無効化するには、BIOSセットアップを用います。

## ユーザーに対する制限事項

Windows2000などのWindowsオペレーティングシステムでは、OSまたはその環境にアクセスすることを制限されたユーザーアカウントを作成することができます。ISTアプレットが正常に動作している場合、システムパフォーマンスは、その制限されたユーザーによって変更することはできません。システムレベルの優先権は、アプレットの無効化、プロセッサのパフォーマンスをAC電源またはバッテリー駆動で切り替えることを示します。選択肢はグレーで表示され、それを実行することはできません。

## 再インストール

もし、すでにIntel SpeedStepテクノロジーアプレットがインストールされている場合、再インストールの前にアプレットをアンインストールすることをお勧めします。

もし、Intel SpeedStepテクノロジーアプレットを二重にインストールした場合は、アプレットは動作中のタスクリストから削除されます。アプレットが動作中に再インストールしようとした場合は、エラーメッセージが表示されます。また、レジストリのOEM情報やユーザーの設定が上書きされてインストール時の状態に戻ってしまいます。

## アプレットのアンインストール

Intel SpeedStepテクノロジーアプレットをアンインストールするには、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」を使用します。

# ASUS PC Probe

---

## 主な内容 :

ASUS PC Probeスタート  
PC Probeモニタの使用方法  
タスクバーアイコン

---

Windows ME & 2000

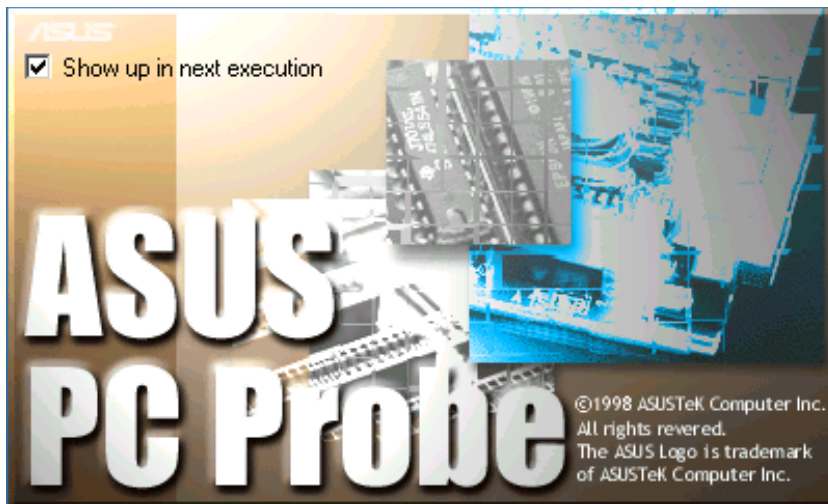
## ASUS PC Probe


「ASUS PC Probe」は、コンピュータの重要な部品の電圧・温度・ファンの回転数をモニタできる便利なユーティリティです。さらに「DMI Explorer」を用いて、ハードディスクの空き量・メモリの使用状況・CPUの種類・内部/外部クロックを知ることができます。

## ASUS PC Probe スタート

ASUS PC Probeアイコン(下図参照)がタスクバーにない時は、Windowsの「スタート」-「プログラム」-「ASUS Utility」-「Probe Vx.xx」と選択して起動します。

「ASUS PC Probe」を起動すると、オープニングビデオが始まります。これは、次回の起動時に表示しないようにもできます。表示しないようにするには「Show up in next execution」のチェックを外します。



「PC Probe」のアイコン  がタスクバーに表示され「ASUS PC Probe」が動作していることを示します。このアイコンにマウスポインタを重ねると、コンピュータの状態を表示します。



注意：PCProbeは、システム情報を監視するためにWindowsのリソースを消費します。大きなアプリケーションを実行する時は、PC Probeを終了させることをお勧めします。

# ASUS PC Probe モニターの使用方法

## Monitoring



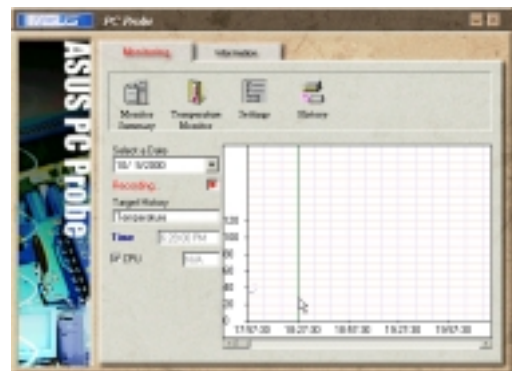
**Monitor Summary**  
モニター中の各項目の概要を表示します。



**Temperature Monitor**  
コンピュータ各部の温度です。



**Settings**  
各上下限値を数値で設定できます。また、モニタリングの周期、表示の更新間隔を変更できます。



**History**  
現在の状況を保存します。参考値として保存しておく場合などに使います。



## Information

### Hard Drives

ハードディスクの使用状況・空き容量・ファイルアロケーションテーブル(FAT)の状態・ファイルシステムの種類などを表示します。

### More Hard Drives

複数のドライブがインストールされている場合、該当するドライブレターをクリックするとその情報を表示します。



### Memory

メモリの使用状況・仮想メモリの状態などを表示します。



### Device Summary

接続されているデバイスの概要を表示します。



### DMI Explorer

CPUの種類・内部/外部クロック周波数・メモリ容量など、コンピュータに関する情報を表示します。

### ASUS PC Probeタスクバーアイコン

「PC Probe」アイコンを右クリックするとメニューが現れ、ウィンドウを開いたり、プログラムとモニタリングを終了させたり、再開させたりできます。

「ASUS PC Probe」がコンピュータに異常を発見した場合は、アイコンの一部が赤く変わり、ビープ音が鳴り、モニター画面が開きます。



# タッチパッド

---

## 主な内容 :

タッチパッドの概要

スクロール機能の設定

ボタンの機能の設定

エッジモーションの設定

タッチ機能の設定

その他の機能

よくある質問(Q&A)

---

## Synaptics<sup>(R)</sup> タッチパッドの概要

Synaptics タッチパッドは通常のマウス以上の機能を持っています。マウスの持つ機能に加えて、タッチパッドは以下の機能を待ちます。

- ・ ボタンをクリックする代わりに「タップ」
- ・ ボタンを使用しないで行う「ドラッグ」
- ・ タッチパッドの感度調整
- ・ ボタンとタップのカスタマイズ
- ・ 文字入力中に偶然ポインタが移動することを防ぐ「Palm Check」
- ・ スクロールバーを使用しないで行うバーチャルスクロール
- ・ ドキュメントのズームアップ・ズームダウン・パンニング
- ・ ポインタの長距離移動
- ・ ポインタ動作の微調整

### ボタンをクリックする代わりに「タップ」

タップ(タッピング)は、パッドの表面を軽く叩くことです。これは、マウスの左ボタンまたはタッチパッドのボタンをクリックするのと同じ機能を持ちます。ボタンをクリックするより便利で、素早く操作することができます。ダブルクリックするにはタップを2回つづけて行います。強く叩きすぎたり、ゆっくり叩いた場合は「タップ」として認識されません。

### ボタンを使用しないで行う「ドラッグ」

Windowsのアイコンなどを移動する場合、ボタンをクリックしたまま、ポインタを移動させる必要があります。これをドラッグといいます。タッチパッドでは、ボタンを使わずにドラッグを行うことができます。

ドラッグの方法(ボタンを押しながらカーソルを動かすのと同じ操作):

- 1) 目的のアイコンなどにポインタを合わせ2回タップします。但し、2回目のタップでは指をパッドから離してはいけません。(これをタップアンドハーフと呼びます。)
- 2) そのままパッド表面を指を滑らすと目的のアイコンなどを移動させることができます。
- 3) ドラッグを終了するには、指をパッドから離します。

### タップアンドハーフ

ドラッグ中に指がパッドの端まで達してしまった場合のために「ロッキングドラッグ」という機能があります。これは指をパッドから離してもドラッグを続けることができる機能です。パッド表面を何度も滑らせれば長い距離も移動できます。ロッキングドラッグを終了するには、もう1度タップします。Synapticsタッチパッドには、長い距離をポインタ移動するための「エッジモーション」という機能もあります。詳しくは「ポインタを長い距離移動する」を参照してください。

タップ、ドラッグ、ロッキングドラッグの設定は、マウスのプロパティの「Touch Properties」ページで行います。



## タッチパッドの感度調整

「Touch Sensitivity」スライダーを用いて、どのくらいの圧力でパッドを触れれば動作するか、感度を調整することができます。スライダーはマウスのプロパティの「Touch Properties」ページにあります。

感度を高く設定するとタッチパッドは少し触れただけで働くようになります。誤ってパッドを触れただけで、ポインタが勝手に移動してしまふような場合は、タッチパッドの感度を低く設定してみてください。一般的に、軽く触れただけで動作するように調整するのがベストです。

## ボタンとタップのカスタマイズ

タッチパッドの2つのボタンは、初期設定では、マウスのボタンと同じ動作をしますが、これをカスタマイズすることもできます。

タップは、通常マウスの左ボタンを押した時と同じ動作をします。パッドの中央をタップした場合は、常に左ボタンクリックと同じ動作ですが、パッドの4隅をタップした時の動作をカスタマイズできます。この4隅を「タップゾーン」と呼びます。2つのボタン・パッドの中央・パッドの4隅の合計7種類のボタンを利用できることとなります。

### カスタマイズ例

タッチパッドを3ボタンマウスと同じ働きをするようにカスタマイズするには、左ボタンに中ボタンの機能を割り当てます。左ボタン本来の機能は「タップ」することで実現できます。さらに、右隅のタップゾーンを右ボタンに割り当ててもいいでしょう。タップゾーンは赤く塗られていますので、すぐ区別できます。

### プリインストールされている機能

ボタンのカスタマイズには様々な例がありますが、以下はSynaptics TouchPadデバイスドライバに最初から用意されているカスタマイズ例です。これ以外の機能を実現するために、サードパーティ製のプラグインをインストールすることもできます。

- Jump to the Start Button : Windowsのスタートボタンにポインタを移動し、スタートメニューを開きます。
- Jump to the current application menu : アプリケーションの一番左のメニュー(多くの場合は<ファイル>)にポインタを移動し、そのメニューを開きます。
- Minimize the current application : ウィンドウを最小化します。すでに最小化されている場合は、通常の高さに戻します。
- Maximize the current application : ウィンドウを最大化します。すでに最大化されている場合は、通常の高さに戻します。
- Run a program of your choosing : ユーザーが設定したアプリケーションを起動します。

カスタマイズは、マウスのプロパティの「Button Actions Properties Page」で行います。

## タイピング中のポインタ移動禁止

パッドに偶然触れてポインタが勝手に動いたりタップしてしまうことがあります。とくにキーボードで文字を入力している最中に誤ってパッドに触れてポインタが思わぬところに移動してしまうことがあります。本タッチパッドには、これを防止する機能があります。

タッチパッドのプロパティにある「Palm Check」スライダーを右(最大)方向に設定すると、キーボード使用中にパッドの働きを無効化することができます。

逆に、キーボード使用中にもタッチパッドを使用したい場合やタッチパッドの反応が鈍く感じる場合は、上記のスライダーを左(最少)方向に設定します。

## スクロール機能

ウィンドウのスクロールボタンを用いずスクロールできるバーチャルスクロール機能があります。これは、単に指をパッドの右端を上下に滑らすだけで実現できます。パッドの上下の端を左右に滑らすと水平方向にスクロールできます。これはスクロールバーが表示されているアクティブなウィンドウに対して有効で、ポインタがどこにあっても機能します。

バーチャルスクロールは、ウィンドウ中の文書だけでなく、一般的なメニューリスト(ファイルやフォントの一覧)に対しても有効です。

さらにバーチャルスクロールには、スムーズスクロールという機能があります。これは、スクロール中にウィンドウ内の文書を強制的に表示させる機能です。スクロール操作に対してリアルタイムに表示内容もスクロールします。

### バーチャルスクロールのカスタマイズ

バーチャルスクロールのカスタマイズはマウスのプロパティの「Scrolling Properties Page」で行うことができます。

## ズームイン/ズームアウト/パンニング

これは、Microsoft Intellimouse対応のアプリケーションでのみ有効です。ズームイン=拡大、ズームアウト=縮小、パンニング=上下左右同時スクロールが可能です。

## ポインタを長い距離移動するには

ドラッグやバーチャルスクロールを行っている最中に指がパッドの端に達してしまう場合があります。これにはエッジモーション(Edge Motion)という機能が有効です。指がパッドの端に達しても、そのままドラッグやスクロールを続けることができます。(指をパッドから離すと終了します。)

エッジモーションには「Pressure-sensitive(圧力に比例)」と「一定」の2つのモードがあります。「Pressure-sensitive」の場合は、パッドを強く押すほどポインタの移動速度が速くなります。

エッジモーションの設定は、マウスのプロパティの「Edge Motion Properties Page」で行います。

## ポインタ移動の微調整

Synapticsタッチパッドにはこれ以外にもポインタ移動をコントロールするための様々な機能があります。「additional features」項目を参照してください。

## アクセサリ

パッチパッドは元々業務用のアプリケーションを快適に使用する目的で開発されました。しかし、これはホビー用にも有効です。タッチパッドの機能をより楽しんで頂けるように、2つのホビー用ソフトウェアを用意しました：「Pressure Graph」と「The Incomparable, Mysterious Synaptics MoodPad」です。

このゲームを起動するには、タスクバーのアイコンをクリックして「Accessories」メニューの中から、該当する項目を選択します。

## 追加情報

タッチパッドは指の静電気で動作します(熱や圧力ではありません)。指をパッドに近づけるとパッド表面に電界が生じます。タッチパッドの回路はパッド表面にある簡単なマトリックス回路です。この回路により電界を測定し、指の位置と圧力を検出します。

タッチパッドの機能を100%利用するには「Synaptics TouchPad」ドライバが必要です。このドライバをインストールすると、Windowsのマウスのプロパティにタッチパッドに関する項目(タブ)が自動的に追加されます。

## プロパティ ページ

タッチパッドの設定は、マウスのプロパティのページで行います。マウスのプロパティに「Buttons」「Pointers」「Pointer Options」タブが追加されます。次ページからこれらの項目について説明します。

## Scrolling Properties Page

バーチャルスクロールの設定を行います。

いくつかのアプリケーションでは、バーチャルスクロールで使用するゾーンをズーム機能にも使用します。

### バーチャルスクロールを有効にする

有効にしたい機能のチェックボックスをクリックします。

- ・ Horizontal Scrolling : 水平スクロール
- ・ Vertical Scrolling : 垂直スクロール
- ・ Coasting : 加速機能

スクロールを有効にする対象を選択します

- ・ Scroll Selected Item : 現在のアクティブウィンドウ
- または -
- ・ Scroll Item Under Pointer : ポインタのあるウィンドウ

### スクロールゾーンの大きさ

右上にパッドの絵があり、スクロールゾーンが赤い斜線で示されています。これをドラッグして、スクロールゾーンの大きさを変更することができます。

スクロールゾーンをうまくタッチできない時は、これを広く設定します。逆に通常のポインタ移動時にスクロール機能が働いてしまう場合は、これを狭く設定します。

### スクロールの速度

スライダーでスクロールの速度を変更できます。右にスライドするとスクロール速度が速くなります。



## Button Actions and Tap Zones Properties Pages

ボタンとタップゾーン(パッドの4隅)の設定とカスタマイズを行います。

もし、複数のSynaptics製ポインティングデバイスがインストールされている場合、プルダウンボックスによってその種類を選択し、個々のデバイスに対して設定を行うことができます。(無効な機能については灰色で表示されます。)



### タップゾーンのカスタマイズ

パッドの4隅のタップゾーンにそれぞれ別の機能を割り当てることができます。例えば、右上のゾーンにマウスの右クリックを割り当てる、といったことができます。

中央にパッドの絵があり、各ゾーンの隣のプルダウンボックスで、その割り当てを設定します。

#### カスタマイズの方法

1. タップゾーンを有効にするには「Enable Tap Zones」をチェックします。4つのゾーンを一括して有効または無効にします。
2. 各ゾーンの隣にあるプルダウンボックスで、その機能を設定します。「No Zone」に設定した場合は、そのゾーンは無効になります。
3. タップゾーンの大きさは、パッドの絵の上をドラッグすることで変更できます。

### ボタンの割り当ての変更

タッチパッドの(物理的な)ボタンの機能を変更します。

#### カスタマイズの方法

各ボタンの隣にプルダウンボックスがありますので、その機能を選択します。例えば「Left」とあるのは、左ボタンクリックのことです。

## More Features Properties Page

以下の拡張機能を設定します。

### Stop Pointer at Window Borders項目

マウスポインタを現在アクティブなウィンドウの外に出ないように設定します。ポインタがウィンドウの端に達するとそこで止まります。

ウィンドウのサイズを変更したり閉じたりした場合でも、ポインタはそのウィンドウ内にとどまりますので、ポインタを見失うことがなくなります。

### Snap to Default Button項目

ポインタをメッセージウィンドウなどのデフォルトボタンに自動的にジャンプさせます。

### Slow Motion Key項目

このプルダウンボックスで設定したキーを押している間、ポインタの移動速度が遅くなります。フォトタッチなどの細かい作業を行う場合に有効です。

### Constrained Pointer Key項目

このプルダウンボックスで設定したキーを押している間、ポインタは水平または垂直方向にのみ動くようになります。垂直/水平の選択は、キーを押す前にポインタが移動していた方向に合わせて自動的に決まります。

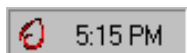
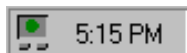
### Synaptics TouchPad Tray Icon項目

タスクバーにSynapticsタッチ패드アイコンを表示します。2種類のアイコンが選択できます。

「Touch Meter」アイコン：パッドを押している圧力をグラフで表示します。バーチャルスクロール中は青くなります。

アニメーションなしアイコン

どちらのアイコンの場合でも、それをダブルクリックするとタッチパッドのプロパティウィンドウが開きます。



## Button Actions Properties Page

タップゾーンと(物理的な)ボタンの動作を設定します。

### タップゾーンのカスタマイズ

パッドの4隅のタップゾーンにそれぞれ別の機能を割り当てることができます。例えば、右上のゾーンにマウスの右クリックを割り当てる、といったことができます。

中央にパッドの絵があり、各ゾーンの隣のプルダウンボックスで、その割り当てを設定します。



#### カスタマイズの方法

- ・ タップゾーンを有効にするには「Enable Tap Zones」をチェックします。4つのゾーンを一括して有効または無効にします。
- ・ 各ゾーンの隣にあるプルダウンボックスで、その機能を設定します。「No Zone」に設定した場合は、そのゾーンは無効になります。
- ・ タップゾーンの大きさは、パッドの絵の上をドラッグすることで変更できます。

### ボタンの割り当ての変更

タッチパッドの(物理的な)ボタンの機能を変更します。

#### カスタマイズの方法

- ・ 各ボタンの隣にプルダウンボックスがありますので、その機能を選択します。例えば「Left」とあるのは、左ボタンクリックのことです。

## Touch Properties Page

タップの応答速度と感度を設定します。

### Taps項目

タップにどの機能を割り当てるかを設定します。

- ・ Tap to Click : クリック
- ・ Tap and Drag : ドラッグ
- ・ Locking Drags : ロッキング ドラッグ

### TouchSensitivity項目

どのくらいの圧力でパッドが反応するかを設定します。スライダーを右に動かすと感度が高くなります。

### Palm Check項目

キーボードで入力中のパッドの誤操作を防止します。タッチパッドのプロパティにある「Palm Check」スライダーを右(最大)方向に設定すると、キーボード使用中にパッドの働きを無効化することができます。P.50を参照してください。





## Edge Motion Properties Page

エッジモーションの設定です。ポインタを長い距離動かす場合に有効です。

### Enabling Edge Motion項目

エッジモーションを有効にする条件を設定します。

- When Dragging : ドラッグ中
- Always : 常時
- When Scrolling : スクロール中

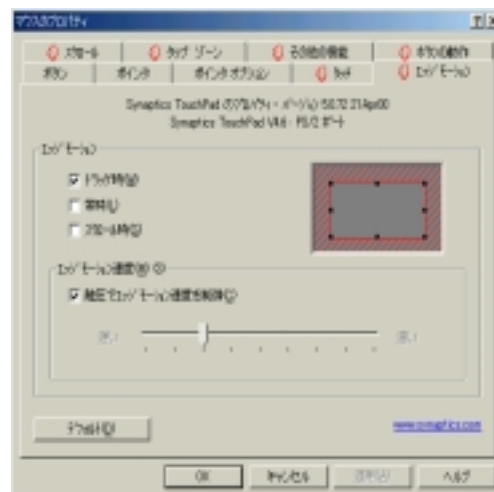
### エッジゾーンの大きさ

右側にパッドの絵があり、エッジモーションが有効なエリアが赤い斜線で表示されています。ドラッグして、このゾーンの大きさを変更できます。

### エッジモーションの速度

「pressure-sensitive(圧力に比例)」または「constant(一定)」に設定できます。「pressure-sensitive(圧力に比例)」の場合は、パッドを押す圧力が大きいほどポインタ移動やスクロールの速度も大きくなります。「pressure-sensitive(圧力に比例)」に設定する場合は「Control edge motion speed with finger pressure」をチェックします。

「constant(一定)」の場合は、チェックを外して、スライダーでその速度を設定します。



## よくある質問(Q&A)

Q: バーチャルスクロール中にポインタが勝手にスクロールバーに移動します。

A: これは正常な動作です。バーチャルスクロールを終了すればカーソルは元の位置に戻ります。

Q: スクロールバーがあるのにバーチャルスクロールが働かないウィンドウがあります。

A: バーチャルスクロールを行うためには、スクロールバーが完全に表示されていなければなりません。スクロールバーの一部が他のウィンドウで隠されていたり、画面の外にはみ出している場合には、バーチャルスクロールは機能しません。但し例外もあり、スクロールバーが完全に表示されていなくてもバーチャルスクロールを行える場合もありますし、特別なスクロール方式を用いているウィンドウでは、スクロールバーが完全に表示されていてもバーチャルスクロールは機能しません。

Q: スクロール中にウィンドウの内容が表示される場合とされない場合があります。

A: スクロール中の表示内容については、そのウィンドウを持つアプリケーションに依存します。一部のアプリケーションでは、スクロールが終わるまでウィンドウの内容が表示されない場合があります。バーチャルスクロールは、アプリケーションのスクロール方式を判別し、スクロール中にアプリケーションに強制表示させるようにしています。(例えば、MS-Wordでは、スクロールバーを用いたスクロールでは、スクロール中にドキュメントの内容を表示しませんが、バーチャルスクロールを用いると強制表示させることができます。)しかし、この方法でも強制表示できないアプリケーションもあります。また、スクロール速度を低くしたり途中で一時停止した時にウィンドウの内容を表示できる場合があります。

Q: スクロール中に画面がジャンプしてうまくスクロールできません。

A: アプリケーションは実際は指の動きに合わせて動作しています。特定のアプリケーションでは、特定の位置にスクロールできないようになっています。そのため、その位置を飛ばしてスクロールするように見えます。通常のスクロールバーを用いたスクロールでもこの現象は発生します。バーチャルスクロールを用いても、この現象は回避できません。

Q: Microsoft Internet Explorerで、バーチャルスクロールが正常に動作しません。

A: Internet Explorer 4.01以上をお使いください。Internet Explorerのプロパティで、スムーズスクロールを「無効」に設定してください。

Q: シフトキーやコントロールキーを押すと、その間、ポインタの移動速度が遅くなったり、垂直や水平方向にしか動かなくなります。

A: シフトキーやコントロールキーは、「Slow Motion Key」や「Constrained Pointer Key」(P.54)に用いられます。同時にアプリケーションでも用いられることが多く、アプリケーションの操作のためにシフトキーを押したのに、ポインタの移動速度が遅くなってしまふ、ということがあります。必要であれば、「Slow Motion Key」および「Constrained Pointer Key」機能を無効にしてください。また「Slow Motion Key」および「Constrained Pointer Key」には左右のシフトキーを別々に割り当てることができますので、右シフトをアプリケーション用、左シフトキーをタッチパッド用を使用するといった方法も有効です。



# PC-cillin 2000

---

## 主な内容 :

PC-cillin2000の概要

コンピュータウィルスとは?

ウィルススキャンの方法

ウィルスが発見された時には

パターンファイルとは?

リアルタイムモニタ

Webトラップ

手動検索

検索ウィンドウ

---

Windows ME & 2000

## PC-cillin へようこそ

PC-cillin 2000は、Trend Micro社製のアンチウイルスソフトウェアです。

### 自動ウイルス保護機能

- ・ ファイルのオープン・コピー・移動・保存ごとにウイルスチェックを行います。
- ・ インターネットからダウンロードしたファイルのウイルスチェックを行います。
- ・ 不正なJavaアプレットやActiveX から保護します。
- ・ Word や Excel のマクロウイルスから保護します(MacroTrap™)。
- ・ 毎週指定日に全ファイルのウイルスチェックを行います。
- ・ 毎月全プログラムファイルとマクロウイルスについてウイルスチェックします。

### 手動ウイルス検索機能

- ・ 個々のファイルについてウイルス検索とウイルス駆除を行います。
- ・ Windows Explorerやコンテキストメニューからウイルス検索を実行できます。
- ・ フロッピーディスクに対してウイルス検索とウイルス駆除を行います。
- ・ Word や Excel のマクロウイルスを検索します。
- ・ Outlook Express 4.0以上またはEudora Pro 4.0以上に対してPOP3スキャンを実行します。
- ・ Outlook 97/98/2000のローカルフォルダに対して検索します。

### 自由なカスタマイズ

PC-cillinの検索方法に対して自由なカスタマイズが行えます。

様々な「タスク」を設定/変更することができます。各タスクについて、検索するファイルの種類、ウイルス発見時の処理(駆除・削除・拡張子変更・放置)などを設定できます。

#### 検索エンジン

ウイルスは、Trend 32ビット マルチスレッド検索エンジンとパターンマッチング方式によって検索されます。既知のウイルスだけではなく、変種(ポリフォーミック型またはミューテーション型)も検出することができます。

#### マクロトラップ

マクロトラップ(MacroTrap)は、既知および未知のマクロウイルスを検出・除去します。

## PC-cillin 2000最新情報

PC-cillin 2000は以前のバージョンの機能に加え以下の機能を持っています。

- ・ Windows 2000対応: PC-cillinは、Windows 2000に完全対応しました。Windowsのインストーラーに準拠していますので、他のアプリケーションと同様の手順で使用できます。
- ・ POP3メール スキャン: Microsoft Outlook Express 4.01以上またはEudora Pro 4.0以上に対して Trend PC-cillin 2000 はPOP3サーバーからダウンロードされるファイルに対して検索を行います。ウイルスに感染した添付ファイルがコンピュータに侵入することを防ぎます。
- ・ Outlookローカルフォルダに対する検索: Microsoft Outlookのローカルフォルダに対して、オンデマンドでウイルス検索を行います。Microsoft Outlookのインストール時のコピーを自動的に検出し、ユーザーがこれにアクセスできるようにします。Microsoft Exchange サーバーのメッセージは検索しません、ローカルフォルダにあるものに対してだけです。
- ・ インクリメンタル方式のウイルスパターンダウンロード: 以前のパターンから変更になった部分のみをダウンロードします。新しいウイルスパターンをダウンロードする時間を短縮できます。インターネットの課金を最少に押さえながら最新のパターンを入手できます。
- ・ 多様なメディアに対応: ハードディスクに加え、以下のメディアに対してもウイルス検索を行うことができます: CD-ROM, CD-R, CD-RW, PD, FD, DVD, ZIPおよび LS120。
- ・ 1.44 MB以上のパターンファイルに対応: ウィルスの種類が増えるに従ってパターンファイルのサイズも大きくなり、1枚の1.44MB FDに入りきらないようになっています。救済用ディスクは、このパターンファイルを複数のFDに分割して保管することができます。PCSCANコマンドライン検索は、複数のFDに分割されたパターンファイルをサポートします。

## ウィルステスト

アンチウィルスソフトウェアメーカーである「European Institute of Computer Anti-virus Research」製のテストファイル(ダミーウィルス)を用いて、ウィルス保護機能をチェックすることができます。

このファイルは実際のウィルスではなく害はありませんが、ウィルスパターンで検出できるコードを持っています。

このファイルは <http://www.antivirus.com/vinfo/testfiles/index.htm>(<http://www.antivirus.com/vinfo/testfiles/index.htm>)からダウンロードできます。

または、以下をテキストとしてファイルにセーブして拡張子をcom(\*.com)にした名前を付けます。

```
X50!P%@AP[4¥PZX54(P^)7CC)7}$EICAR-STANDARD-ANTIVIRUS-TEST-FILE!$H+H*
```

このファイルをダウンロードする前にリアルタイム検索を無効にしてください。このファイルを用いると、どのようにウィルス保護機能が働くのかを確認することができます。

## コンピュータウィルスとは何か?

コンピュータウィルスは既存のプログラムに成り代わってコンピュータに侵入します。具体的には実行ファイル(.exe, .com, .dll)の一部に自分自身を潜ませます。このウィルスを含んだプログラムを実行するとウィルスが発動します。一般的に、ウィルスはコンピュータに悪い影響を与えます。

ウィルスの被害には様々な種類があり、システムの重要なファイルを書き換えてしまうものから、単に(冗談的な)メッセージを表示するだけのものなどがあります。

一見被害のないように見えるものでも、メモリやディスク容量を消費したり、ネットワークトラフィックを増大させたり、パフォーマンスを低下させたりしますので、ウィルスに対しては厳格な対応が必要です。また、ウィルスには不完全なコードのものがありますので、(ウィルス本来の動作をせずに)システムをハングアップさせたり、不安定にさせたりします。システムに原因不明の問題がある場合、ウィルスがその原因である場合があります。

ウィルスには「論理爆弾」と呼ばれるものもあります。これは実行したその時点では発病せず、特定の日付・時間に被害を発するタイプです。また、そのコンピュータでは発病せず、ネットワークに侵入してから発病するものもあります。この場合、ウィルスを含んだファイルがあっても、自分のコンピュータでは問題が出ないので、それに気づかない可能性があります。そのウィルスを含んだファイルをメールに添付して送った場合に、相手のコンピュータで発病し被害を与えます。

ウィルスの種類などについて詳しく知りたい場合は、Trend Micro社のWEBサイト <http://www.antivirus.com> にある「Trend Micro's online Virus Encyclopedia」を参照してください。



## ウィルスの感染経路

ウィルスの主な感染経路には以下があります：

- ・ 電子メールの添付ファイル
- ・ WWWサイト
- ・ FTPサイトからのダウンロードファイル
- ・ ネットワーク共有ファイル
- ・ デモストレーション ソフトウェア
- ・ 海賊ソフトウェア
- ・ 圧縮ファイル (まれ)
- ・ コンピュータ研究所
- ・ 掲示板(BBS)
- ・ ディスクの借り貸し (他人に貸し出したディスクに注意)

最も大きな感染経路は、電子メールの添付ファイル、フロッピーディスク、モデムによる通信などです。今日では、インターネット/イントラネットの発達により、ウィルスがネットワーク経由で爆発的に広まる危険性があります。

## ウィルスの作者

典型的な例では、ウィルスの作者は個人で単独で作業を行い、コンピュータ・ネットワークサーバー・インターネットにウィルスをばらまきます。その動機は、エゴ・復讐・妨害などです。最近では、ウィルス作成用キットがインターネットに出まわっており、また、マクロウィルスはより簡単に作成できることから、ウィルスの驚異は身近なものになっています。つまり、専門的な知識がなくても、ウィルスを作成することができるのです。

ウィルスがどこような形で作られ広まるに関らず、自分のコンピュータをウィルスから保護することは重要です。ウィルスの被害の大きさを考えると、その防御のための手間を惜しんではいけません。



# ホットキーユーティリティ

---

主な内容 :

ASUSホットキー

ボタン

動作設定

Run Program:ユーザープログラムの追加

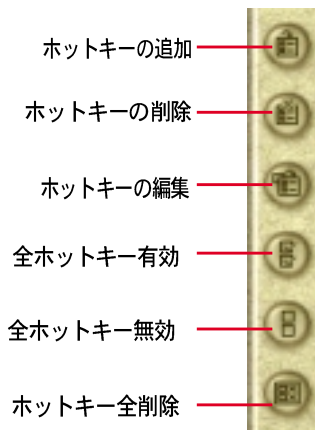
---

Windows ME のみ

# ASUSホットキー

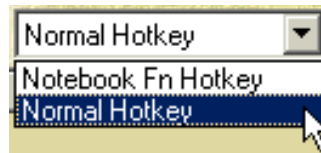
## ボタン

ホットキーは設定プログラムウィンドウの左端にあり、以下の構成になっています。



## ホットキーの追加

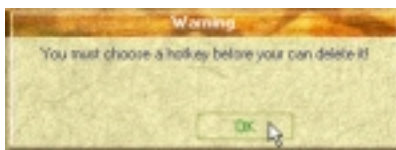
ホットキーの動作は「Notebook Fn Hotkey」(最大5種類)または「Normal Hotkey」で編集できます。ホットキーを追加するには、ホットキーボックスで、そのキーの組み合わせを押します。(「Notebook Fn Hotkey」では<Fn>キーは自動で追加されるため押す必要はありません。)有効なホットキーの一覧は「Hotkey Actions」で見ることができます。



## ホットキーの削除

削除したいホットキーを強調表示させ、このボタンを押します。

ホットキーが選択できない場合、以下のメッセージが表示されます。



## ホットキーの編集

編集したいホットキーを強調表示させ、このボタンを押します。

追加の場合と同様に必要な事項を入力します。



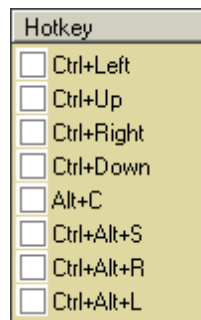
## 全ホットキー有効

有効にしたいホットキーにチェックマークを付けます。



## 全ホットキー無効

無効にしたいホットキーのチェックマークを外します。






## ホットキー全削除

全てのホットキーを削除します。右の確認メッセージが表示されます。



## ホットキーの動作

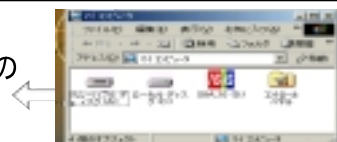
動作	説明	動作例
None:	なにもしません	--
Move Window To Left:	アクティブウィンドウを1~50ステップの範囲で左へ移動します	
Move Window To Up:	アクティブウィンドウを1~50ステップの範囲で上へ移動します	
Move Window To Right:	アクティブウィンドウを1~50ステップの範囲で右へ移動します	

**動作****説明****動作例**

Move Window To Below: アクティブウィンドウを1~50ステップの範囲で下へ移動します



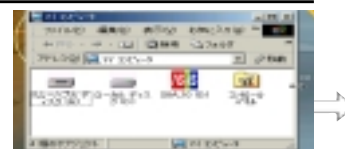
Extend Window From Left: アクティブウィンドウを1~50ステップの範囲で左へ広げます



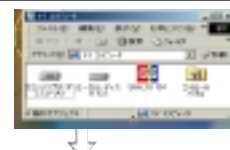
Extend Window From Up: アクティブウィンドウを1~50ステップの範囲で上へ広げます



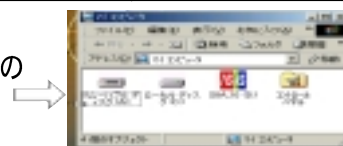
Extend Window From Right: アクティブウィンドウを1~50ステップの範囲で右へ広げます



Extend Window From Below: アクティブウィンドウを1~50ステップの範囲で下へ広げます



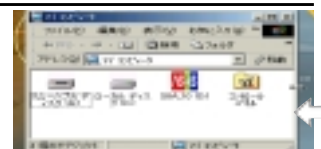
Shrink Window from Left: アクティブウィンドウを1~50ステップの範囲で左から狭めます



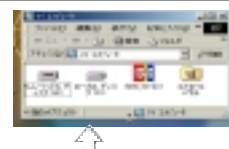
Shrink Window from Up: アクティブウィンドウを1~50ステップの範囲で上から狭めます




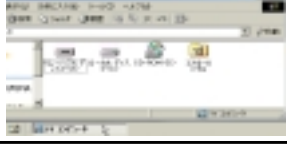


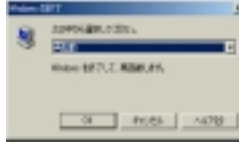
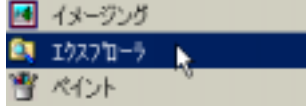
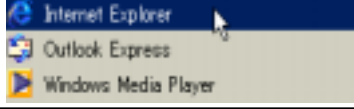



Shrink Window From Right: アクティブウィンドウを1~50ステップの範囲で右から狭めます




Shrink Window From Below: アクティブウィンドウを1~50ステップの範囲で下から狭めます

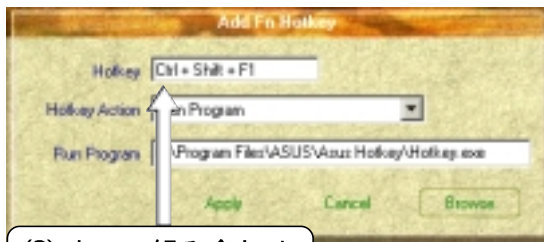


動作	説明	動作例
Minimize Window:	アクティブウィンドウを最小化します	
Maximize Window:	アクティブウィンドウを最大化します	
Show Normal Size:	アクティブウィンドウを通常の高さにします	
Restore:	最小化されたウィンドウを元のサイズに戻します	
Log Off:	現在のユーザーのログオフを行います	
Shut Down:	Windowsをシャットダウンします	
Reboot:	Windowsを再起動します	
Run Explorer:	Explorerを起動します	
Run Browser:	インターネットブラウザを起動します	
Run Program:	ユーザープログラムを起動します	

## Run Program : ユーザープログラムの追加

ホットキーにより任意のプログラムを起動したい場合は、以下のように設定します。

ホットキーの追加  (1) クリックします。

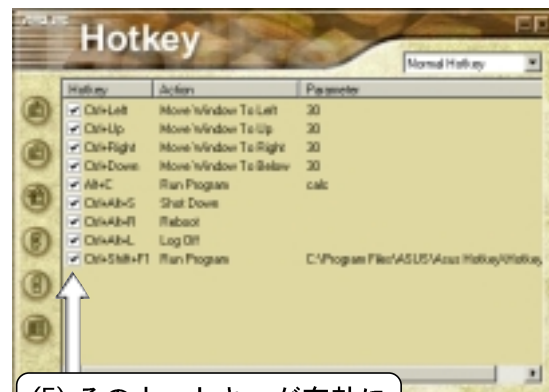
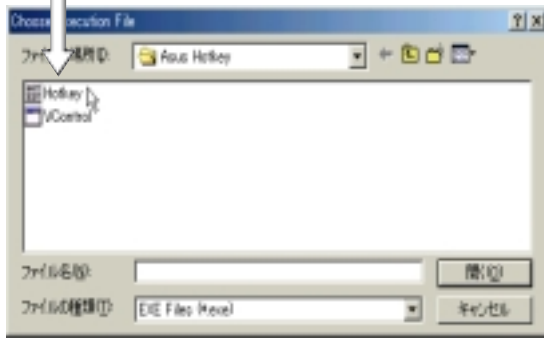


(2) キーの組み合わせを押します。



(3) 「Run Program」を選択します。

(4) 実行したいプログラムを選択します。



(5) そのホットキーが有効になっているか確認します。



# 付録

---

## 主な内容 :

新しいHDDを使用する

Save-to-Disk の使用方法

BIOSのアップデート

Communication Regulations

Declaration Of Conformity

---

---

## 新しいHDDを使用する

新しいハードディスクドライブ(HDD)をNotebook PCで使用するには、まずパーティションを作成しないとけません。パーティションはデータを格納するための区画です。各パーティションにドライブレターが1つずつ割り当てられます。(CD-ROMドライブには、最後のドライブレターが割り当てられます。)

注意：パーティションを設定しないとフォーマットすることはできません。また、フォーマットによりパーティションが削除されることはありません。

## 起動用ディスクの作成

新しいHDDからはシステムを起動できないので、起動用のフロッピーディスクが必要です。予めDOSの「FORMAT A:/S」コマンドか、Windowsのフォーマットユーティリティを「起動専用」オプション付きで実行して作成します。このディスクにFDISK.EXEとFORMAT.COMをコピーします。(FDISK.EXEとFORMAT.COMは、DOSユーティリティまたは、Windows 95/98/MEの「C:¥WINDOWS¥COMMAND」ディレクトリにあります。)フロッピーディスクにAUTOEXEC.BATとCONFIG.SYSがあれば、これを削除してください。不要なメモリマネージャがAUTOEXEC.BATまたはCONFIG.SYSに含まれている可能性があるからです。

## FDISK.EXEの使用方法

FDISK.EXEは、HDDのパーティションを追加/削除するユーティリティプログラムです。まだフォーマットされていない新品のハードディスクに対して使用します。(パーティションが作成されていないとフォーマットはできません。)FDISK.EXEを用いるとHDD内のすべてのデータは削除され、そのデータの復旧は不可能になりますので注意してください。

1. 前項で作成したフロッピーディスクで起動します。
2. 「A:¥>」プロンプトに対し「FDISK.EXE」と入力して[Enter]を押します。
3. 画面の指示に従ってプライマリパーティションと、必要ならば拡張パーティションを作成します。プライマリパーティションをアクティブに設定します。

## HDDのフォーマット

HDDをフォーマットするとパーティション内の全てのデータが削除されます。他のドライブをフォーマットする場合は、そのドライブを指定してFORMATを実行します(下記のC:¥をD:¥、E:¥などに置き換えます)。/Sオプションを付けると、そのドライブから起動できるようになります。「FORMAT /?»でオプションの一覧を表示できます。

1. 前々項で作成したフロッピーディスクで起動します。
2. 「A:¥>」プロンプトに対し「FORMAT C: /S」と入力して[Enter]を押します。
3. 確認メッセージに対し「Y[Enter]」を押すとフォーマットが開始されます。
4. ボリュームラベルを入力します。必要ない場合は[Enter]のみを押します。

## Windows 95/98でのSave-to-Diskパーティション

Windows ME/2000では、ハイパーネーションのためのSave-to-Diskパーティションは必要ありません。

Save-to-Diskを利用するためには、BIOSの設定の他にそれ専用のパーティションを用意する必要があります。Save-to-Diskパーティションを作成するには、PHDISKユーティリティを使用します。

Save-to-Diskパーティションは、HDD上のそれ専用のエリアで他の用途には使用できません。通常、このパーティションはユーザーがアクセスすることはありませんので、ドライブレターは割り当てられません。Save-to-Diskパーティションを設定するには、HDDにパーティションが作成されていない空き領域が必要です。

最新バージョンのPHDISKは、パーティションではなくファイルにSave-to-Diskエリアを作成できます。(SAVE2DSK.BINという名前の隠されたファイルになります。)この方法を用いると、現状のファイルやパーティションを変更せずにSave-to-Diskエリアを作成できます。この場合は、専用のパーティションではなく一般的なファイルと同じですので、間違えて削除する危険があったり、ウイルスが感染したり、フラグメントが発生したりします。しかし、現状のパーティション構成を変更する必要がありませんので便利な方法です。

Save-to-Diskエリアのサイズは、搭載されているメインメモリとビデオメモリの容量を足したものより少し大きなサイズになります。従って、メモリを増設した場合は、そのサイズに合わせて、Save-to-Disk用パーティションを作成し直す必要があります。

### Save-to-Diskパーティションの作成方法

1. サポートCDの「PHDISK.EXE」をHDDまたはFDDにコピーしておきます。
2. DOSコマンドで「PHDISK /CREATE /PARTITION」と入力します。

### Save-to-Diskファイルの作成方法

1. サポートCDの「PHDISK.EXE」をHDDまたはFDDにコピーしておきます。
2. DOSコマンドで「PHDISK」と入力します。
3. ファイルを作成するために「1」を入力します。
4. Save-to-Diskファイルのサイズを入力します。表示されている推奨値より大きな値を入力します。
5. 「Save to File Information:」に書かれている内容を確認します。「4」を押して終了します。

注意：Save-to-DiskパーティションとSave-to-Diskファイルの両方を作成した場合は、Save-to-Diskファイルが使用されます。HDDの容量を確保するため、どちらかを削除してください。

## BIOSのアップデート

PHLASH.EXEは、Notebook PCマザーボード上のプログラム可能なフラッシュROMにBIOSファイルを書き込むためのフラッシュメモリアイターユーティリティです。これは、DOS専用のアプリケーションです。現在のBIOSのバージョンを知るには、[F2]キーを押してBIOSセットアップに入る直前の画面の左上に表示される4桁の数字(BIOS Ver. XXXXX)を見ます。数字が大きいほど、新しいバージョンです。

### BIOSアップデート専用FDの作成

PHLASHはDOSモードでのみ動作します。WindowsのDOSプロンプトやメモリマネージャを組み込んだHDDから起動したDOSでは動作しません。PHLASH専用の起動ディスクを作成することをお勧めします。

1. インターネットのWWWまたはFTPサイトから、BIOSファイルをダウンロードします。(URLはサポート情報を参照してください。)
2. ドライブにフロッピーディスクを挿入し、DOSプロンプトでFORMAT A:/Sを実行します。AUTOEXEC.BATとCONFIG.SYSは、コピーしないでください。
3. 上記のフロッピーにPHLASH.EXEとPLATFORM.BINをコピーします。また、サポートCDのオリジナルBIOSファイルと上記でダウンロードした新しいBIOSファイルもコピーしておきます。

### BIOSアップデートをHDDで利用する

Notebook PCでは、FDDとCD/DVD-ROMドライブをいつでも使えるとは限りませんので、PHLASH.EXE、PLATFORM.BINおよびBIOSファイルをハードディスクにコピーして利用できます。最新のBIOSについては、取扱店にご相談ください。

## FDからのBIOSアップデート手順



警告！BIOSアップデートは、Notebook PCに問題があり新しいBIOSでそれが解決できる場合に行ってください。不用意なアップデートは、問題をさらに拡大させる可能性があります。

1. 前ページで作成したフロッピーでNotebook PCを再起動します。  
注意：BIOSセットアップでフロッピーディスクから起動するように設定しておいてください。(ハードウェアマニュアルのBIOSセットアップ参照)
2. 「A:¥」プロンプトで「plash/mode=3 xxxx.rom」(xxxxはBIOSファイル名)と入力し、[Enter]を押します。



警告！アップデート中に問題が発生しても、絶対に電源を切ってはいけません。再起動不可能になります。もう一度同じ手順を繰り返して、それでも問題あるなら、保存してある元のBIOSファイルを用いてください。BIOSファイルが完全に書き込まれない状態で中断すると、Notebook PCは起動できなくなります。もし、この状態になった場合は修理が必要になります。

3. PHLASHユーティリティは、自動的にBIOSをアップデートします。BIOSが正常にプログラムされたら、キーをどれか押します。Notebook PCの電源はOFFになります。
4. Notebook PCの電源を再度ONにし、すぐに[F2]キーを押し、BIOSセットアップを起動します。「Exitメニュー」の「Load Setup Defaults」選択し、[Enter]を押します。ユーザー設定は初期値に戻りますので、必要に応じてBIOS設定を行ってください。「Exit Saving Changes」を選択し、BIOSセットアップを終了します。再起動後、画面の解像度が変わってしまった場合には「ドライバおよびユーティリティ ユーザーマニュアル」を参照して「Screen area」の再設定を行ってください。

## HDDからのBIOSアップデート手順

注意：Windows2000/NT4.0をフロッピーディスクドライブなしモデルで用いている場合は、BIOSのアップデートはできません。

1. Windows 95/98: Notebook PCの電源をONにし、Windowsが起動する前に[F8]を押します。表示されるメニューから「Command prompt only」を選択します。  
Windows ME: 「Windows Recovery CD」またはOS CDを用いて、CD-ROMから起動して、DOSモードを選択してください。
2. 「C:¥」プロンプトに対し「plash/mode=3 xxxx.rom」(xxxxはBIOSファイル名)と入力し、[Enter]を押します。

## Modem Communication Regulations (内蔵モデムの規格:原文)

### FCC Regulations

The following statements are provided in accordance with the Federal Communications Commission (FCC) regulations. Please read these statements carefully before installing your modem.

### FCC Part 68 Requirements

This equipment complies with Part 68 of the FCC Rules. On the bottom of this equipment is a label that contains, among other information, the FCC Registration Number and Ringer Equivalence Number (REN) for this equipment. If requested, this information must be given to the telephone company.

The REN is used to determine the maximum number of devices connected to your telephone line that will ring in response to an incoming call. In most, but not all, areas, the total REN of devices connected to a line should not exceed five (5.0). To find out the total permitted in your area, contact your local telephone company.

If your telephone equipment causes harm to the telephone network, the telephone company can discontinue your service temporarily. If possible, the company will notify you in advance. But if advance notice isn't practical, you will be notified as soon as possible. You will be informed of your right to file a complaint with the FCC.

Your telephone company can make changes in its facilities, equipment, operations, or procedures that could affect the operation of your equipment. If so, you will be notified in advance so you can make the changes needed to maintain uninterrupted service.

If you experience trouble with this equipment, please contact the manufacturer at the address given in this manual. The telephone company may ask that you disconnect this equipment from the network until the problem has been corrected or until you are sure that the equipment is not malfunctioning.

This equipment may not be used on public coin service provided by the telephone company. Connection to party lines is subject to state tariffs.

## Modem Declaration Of Conformity

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio and television reception, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

**WARNING!** CHANGES OR MODIFICATIONS NOT EXPRESSLY APPROVED BY THE PARTY RESPONSIBLE FOR COMPLIANCE COULD VOID THE USER'S AUTHORITY TO OPERATE THE EQUIPMENT

## Canadian Department Of Communications (CDOC):

Notice: The Canadian Department of Communications label identifies certified equipment. This certification means the equipment meets certain telecommunications network requirements. The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment users should ensure that connection to the line is allowed by the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection. In some cases, the company's inside wiring associated with a single line individual service may be extended by means of a telephone extension cord. Compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in certain situations.

Repairs to certified equipment should be made by an authorized Canadian maintenance facility designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines, and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

**WARNING!** Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

